

令和5年度第2回 横浜市自転車等施策 検討協議会



令和6年3月19日



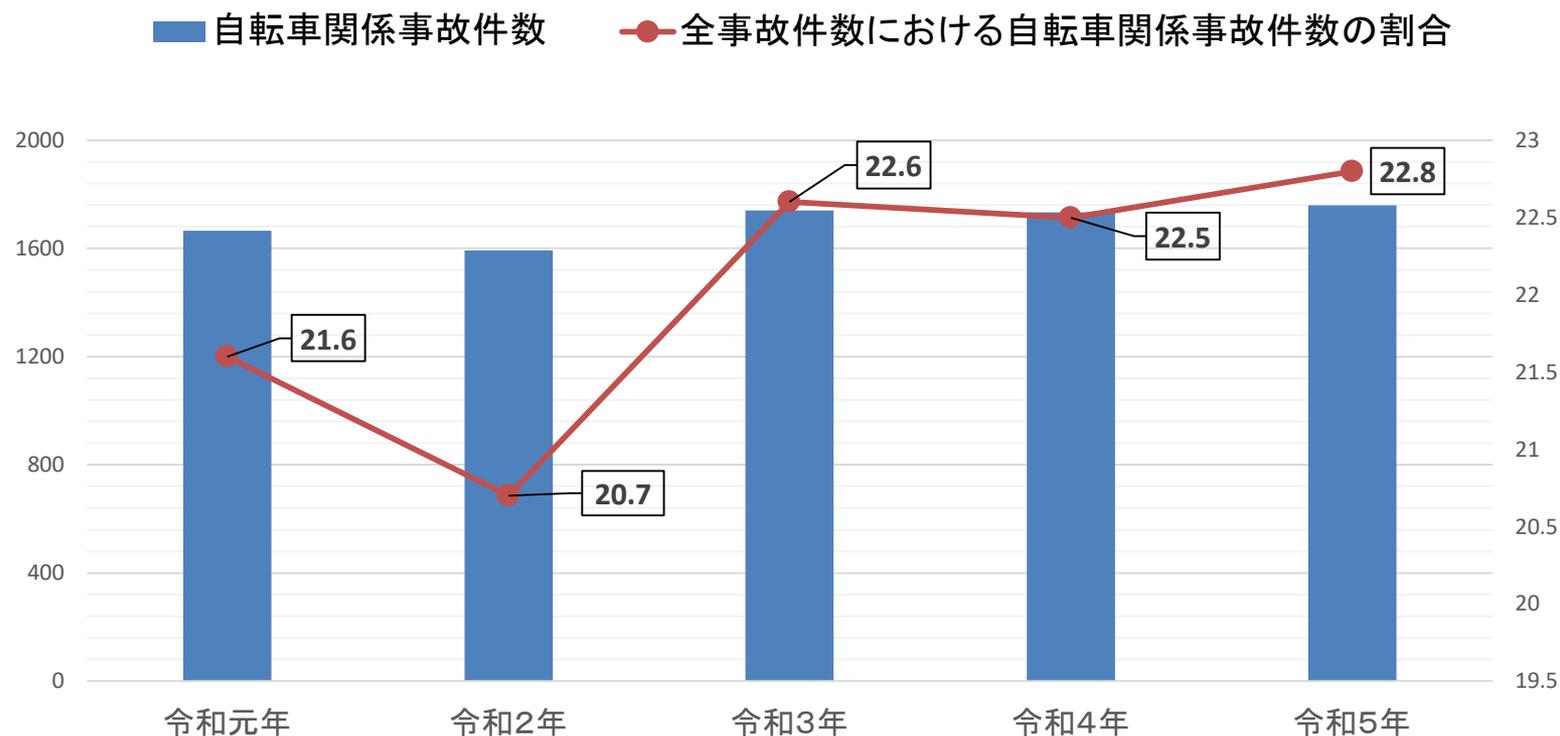
議事 1 横浜市自転車活用推進計画
各施策の実施状況について

議事 2 横浜市広域シェアサイクル事業社会実験
事業評価部会の開催状況について

1

横浜市自転車活用推進計画 各施策の実施状況について

■ 自転車関係事故件数推移



テーマ1 【まもる】 ヘルメット着用率の現状

【参考】 自転車乗車用ヘルメットの着用率（令和5年7月、警察庁一斉調査）

都道府県	着用率
茨城県	21.3%
栃木県	13.2%
群馬県	43.8%
埼玉県	6.1%
千葉県	6.4%
東京都	10.5%
神奈川県	8.4%

【全国平均】 13.5%

【最高：愛媛県】 59.9%

【最低：新潟県】 2.4%

■方針

■具体の取組

方針 1

**交通ルールを
学べる環境を
つくる**

(1) 切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

(2) 教育・啓発・指導ができる体制づくり

方針 2

**安全・安心に
自転車を利用
できる環境を
つくる**

(1) 自転車とクルマが互いに配慮できる意識啓発

(2) 自転車保険の加入促進

(3) 安全に乗るための点検・整備方法の周知啓発

切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

施策
1

幼
児

■ 幼児交通安全訪問指導

- ・市内幼稚園・保育所等で幼児を対象にパペット指導や就学前指導を実施
- ・**自転車利用時のヘルメット着用等**について周知
- ・R5年度実績:288園(予定:300園)
R6年度予定:308園



小
学
生

■ はまっ子交通あんぜん教室

- ・市内小学校で**小学3～6年生を対象**に、警察署や交通安全協会、区役所が連携し 自転車の点検、正しい乗り方、交通ルール等を指導
- ・R5年度実績:254回(予定:249回)、参加者 23,627名
R6年度予定:275回



■ 放課後キッズクラブ交通安全教室【令和5年度新規事業】

- ・市内放課後キッズクラブで**小学生を対象**に基本的な交通ルールや自転車の正しい乗り方や点検等の交通安全についてクイズ形式で指導
- ・R5年度実績:**交通安全推進校4校の放課後キッズクラブ**
参加者255名
R6年度予定:交通安全推進校5校の放課後キッズクラブ



切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

中学生・高校生

■ 中学生・高校生向け自転車交通安全教室

市内中学校・高校等で**中学生・高校生を対象**に、自転車の交通ルール・マナーを学ぶ交通安全教育を座学講義形式で実施。

【指導内容】

自転車の通行場所、年齢によって適用される自転車ルール、自転車保険の加入の必要性、**自転車ヘルメット着用努力義務化、電動キックボードの安全利用**...など

- ・R5年度実績:20回(予定:20回)、参加者5,544名
- ・R6年度予定:20回



■ スケアード・ストレイト方式自転車交通安全教室

市内で**中学生や高校生などを対象**にスタントマンによる**自転車事故再現等**を実施

- ・R5年度実績:9回(予定:10回)
- ・R6年度予定:11回

保護者

■ 幼児保護者向け交通安全教室

市内幼稚園・保育所等で**幼児保護者を対象**に交通安全教室を実施

【講義内容】

道路交通法、標識、ヘルメット非着用時の衝撃実験結果等について

- ・R5年度実績:23回(3月末までの申込済分)
- ・R6年度予定:未定



切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

施策
2

全
世
代
向
け

X（旧Twitter）を活用した啓発

- 各季交通安全運動に合わせて交通ルールやマナーに関する内容をX（旧Twitter）で発信



X（旧Twitter）の発信

YouTubeを活用した啓発

- 自転車の安全利用に関する内容などの動画を公開



幼児向け交通安全教育動画



子乗せ自転車啓発動画

教育の場で活用できる啓発ツールの配布

○幼児保護者向けチラシ ≪R6.3改訂≫

「自転車に子どもを乗せる保護者向け」の内容に加え、**保護者から幼児に伝えてもらいたい交通安全ルール全般**を盛り込み、ヘルメットやチャイルドシートを着用、親子の道路の歩き方等を、イラストを交えて解説しています。多くの保護者のみなさまに伝えられるように、区役所で行われる**1歳半検診・3歳児検診に配布します。**



巻き三つ折りにすることで、手に取りやすくなりました

既存チラシ類も活用



○みんなのサイクルルールブックよこはま (コンパクト版) ≪R5改訂≫



自転車ルールのきほん

中学生向け・高校生向けチラシを統合します

≪R6.3改訂予定≫



中学生向け
自転車の交通ルール



高校生向け
自転車の交通ルール

教育・啓発・指導ができる体制づくり

イベントでの啓発

- ヨコハマサイクルスタイル 令和5年5月13日（土）
- MMテラスリニューアルイベント 令和5年9月3日（日）
- こどもの国啓発イベント 令和5年12月15日（土）

<内容>

- SHARE THE ROADの反射材を配布し、取組を周知
- 神奈川県警や企業(東急バス株式会社)と連携！
各キャラクターが集合し、啓発を実施



- 自転車ヘルメット着用促進キャンペーン @イオン天王町 令和6年1月28日（日）

<内容>

- 交通ルールクイズラリー
 - 自転車ヘルメット展示・試着
 - 自転車シミュレーター体験
 - 白バイ乗車体験
- 包括連携協定を締結しているイオン様の御協力のもと、神奈川県警察や保土ヶ谷区役所と連携し、ヘルメット着用促進イベントを実施しました。



市の取組

自転車乗車時ヘルメット着用率向上に向けて

イオン天王町
県警や民間事業者と連携
啓発イベントの実施

広報媒体を利用して
新たな啓発用ポスター等の
作成 (R6.3 末予定)



啓発チラシ



ウェブページ



○ヘルメット着用併発
イベント

- ・民間店舗と連携し、ヘルメット試着コーナーを設置
- ・自転車の交通ルールとマナーをわかりやすく伝える自転車シミュレーターを体験できるコーナーを設置



ヘルメット着用啓発ポスター
各区役所、一部民間店舗に掲出
R5年度は、旭区医師会と連携し
一部の病院に掲載中

自転車保険の加入促進

市の取組

保険加入状況調査の実施

令和5年度の加入状況調査結果及び過去の調査結果との比較

概要

- 令和5年度調査

令和5年11月24日～12月14日まで、6歳以上の市民5,000人を対象に実施

回答方法：インターネット

R5 回答者数は413人（8.3%）

	R1	R2	R3	R4	R5	目標値
自転車保険加入率	44.6%	69.2%	68.4%	77.7%	78.5%	85%

- 自転車保険の加入率は**約78.5%**と**増加**。
 - 令和元年10月から自転車保険の加入が義務化されたことを、知っていると回答した人は**70.5%**に**増加**、自転車保険の認知度は**91.5%**に**増加**。
- 引き続き、加入の必要性を訴え、加入率向上に向けた施策を推進していく。

自転車保険の加入促進

■ 自転車保険の年代別加入率

	R1	R2	R3	R4	R5
18歳未満	54.1%	71.4%	65.7%	76.6%	81.8%
18歳～20歳代	39.3%	61.8%	59.1%	57.1%	53.3%
30歳代		72.9%	68.7%	83.7%	83.3%
40歳代	46.9%	67.1%	72.8%	84.4%	79.6%
50歳代		73.3%	74.7%	82.5%	87.2%
60歳代	40.3%	69.5%	64.8%	75.0%	76.2%
70歳代以上	32.7%	65.0%	66.7%	68.3%	64.3%
全年代	44.6%	69.2%	68.4%	77.7%	78.5%

昨年度に引き続き、
18歳～20歳代の加入
率が最も低かった

- 18歳未満においては全体の加入率を上回り、2年連続で向上した。
- 18歳～20歳代と、60歳代以上の**高齢層**において、全体の加入率を下回った
→ 引き続き、各世代に応じた効果的な媒体を用いた広報を行い、加入率の向上を図る

市の取組 広報の実施

〇LINE（バナー広告）の掲出 横浜市民対象（2月26日～3月4日）

〇本市SNSでの広報 LINE、X（旧Twitter）

〇市営地下鉄・市営バスへのポスター掲示（2月26日～3月5日）

若い世代に向けた・LINE広告

- ターゲット 横浜市内の自転車利用者 自転車購入者
- クリック数設定 期間中1,000



横浜市公式 LINE
登録者：777,468人
3/5 12:00発信

広い世代に向けた・交通系広告

- ・市営バスの掲出 → 3/1～3/7
- ・市営地下鉄への掲出 2/26～3/3 ↓



- ・市営地下鉄 駅張り ← 2/28～3/1

■方針

■具体の取組

方針
1

地域の自転車
ネットワークを
つくる

(1) 重点エリアでの自転車通行空間の整備推進

(2) 都心臨海部における自転車利用環境づくりの推進

方針
2

地域をつなぐ
広域ネットワーク
をつくる

広域的な自転車ネットワークの形成

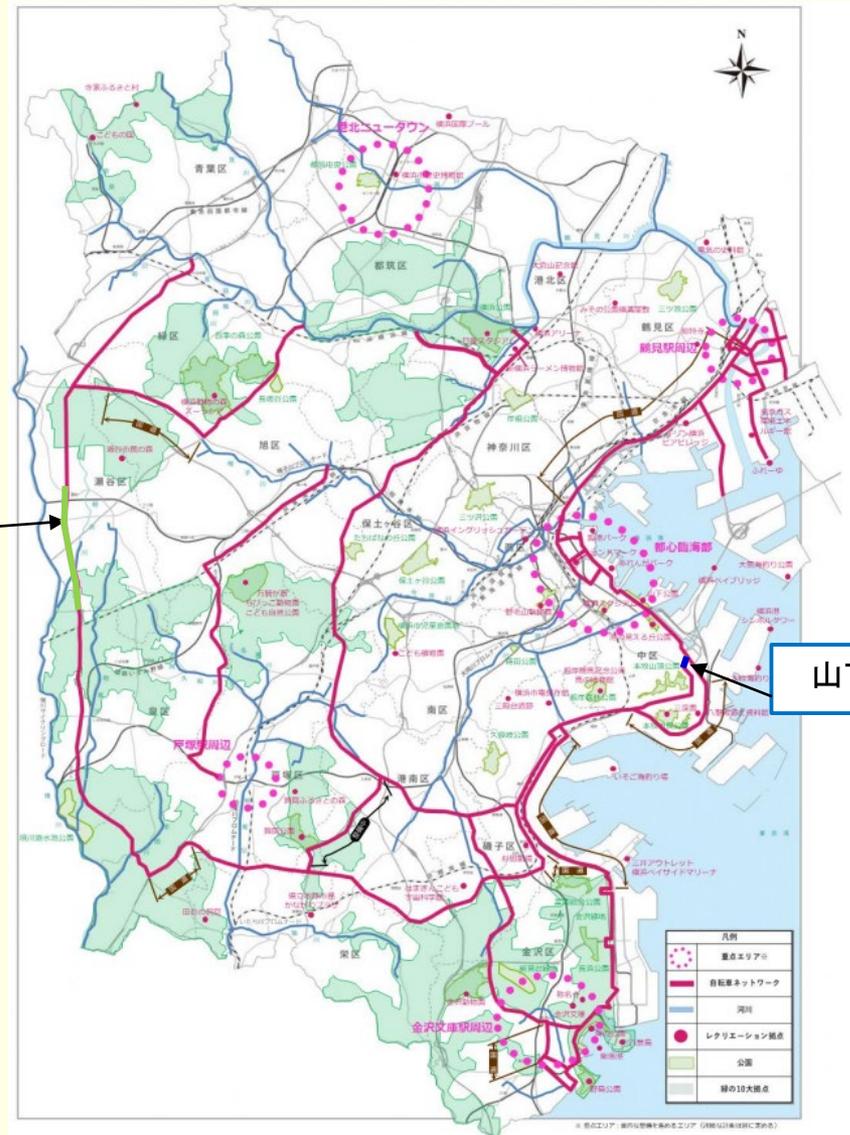
方針
3

安全で快適な
自転車通行環境を
つくる

自転車通行環境の快適性向上

自転車通行空間の整備状況

令和5年度の事業箇所



環状4号線

山下本牧磯子線

工事

設計

自転車通行空間の整備状況

- 令和5年度は下記工事及び設計の実施を予定

工事

路線名・地区名	延べ延長	整備形態
山下本牧磯子線 (中区本牧地区)	約 530m	矢羽根型路面表示
その他	約 1,890m	矢羽根型路面表示
計	約 2,420m	

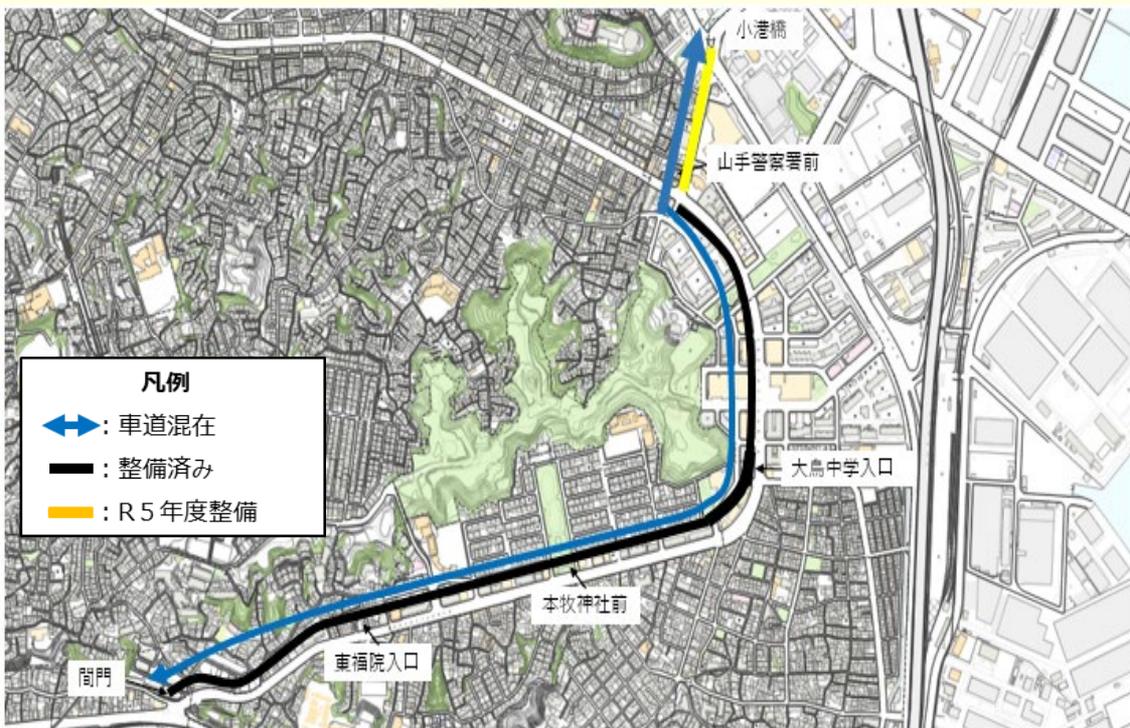
設計

路線名・地区名	延べ延長
環状4号線 (瀬谷区)	約 6.6km
計	約 6.6km

自転車ネットワークでの自転車通行空間の整備推進

■ 山下本牧磯子線 自転車通行空間整備

令和5年度は、「山手警察署前」から「小港橋」
交差点間を整備。



R5整備箇所

自転車通行空間の整備状況

令和6年度の事業予定箇所



工事

■ 令和6年度は下記の工事を実施予定
工事

地区・路線名	整備形態	延べ延長
戸塚駅周辺 (重点エリア)	矢羽根型路面表示	約 500m
港北ニュータウン (重点エリア)	矢羽根型路面表示	約 1,000m
都心臨海部 (重点エリア)	矢羽根型路面表示	約 1,000m
金沢文庫駅周辺 (重点エリア)	矢羽根型路面表示	約 1,000m
環状4号線 (瀬谷区)	自転車通行帯	約 1,500m
中田さちが丘線 (泉区)	自転車通行帯 矢羽根型路面表示	約 900m
	計	約 5,900m

■方針

■具体の取組

方針 1

目的に応じた
駐輪場の「量」
を確保する

(1) 買い物等の集客施設での利用に応じた駐輪場の確保

(2) 鉄道利用等に対応した駐輪場の拡充

方針 2

サービスの
「質」を高める

(1) 市営自転車駐車場のサービス向上

(2) 持続可能な市営駐輪事業のしくみ構築

方針 3

まちに適した
駐輪対策を進める

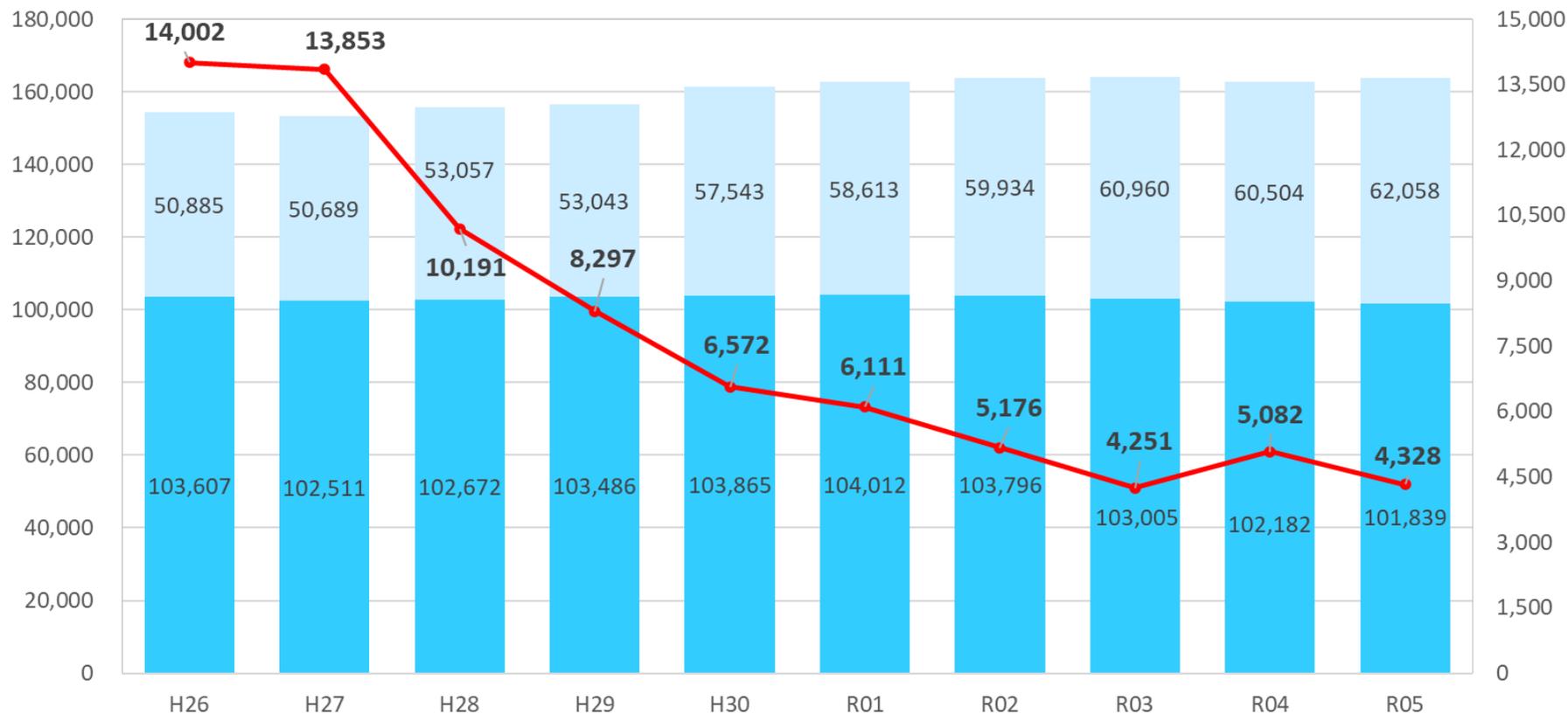
地域、民間、行政の連携による駐輪対策の実施

放置自転車台数の推移

- 駐輪場の収容台数は約165,000台程度で推移
- 放置自転車台数はR5年度は、前年度と比較して約1,000台減少

収容台数(台)

※市営駐輪場は無料駐輪場含む 放置台数(台)



■ 市営自転車駐車場収容台数 ■ 民営自転車駐車場収容台数 ● 放置台数

駐輪場の附置義務制度の運用状況

- 駐輪場の附置を義務付ける条例の義務規定を適用した運用を令和元年度から開始
- 該当する施設の新築・増築の機会を捉えて、附置義務による駐輪場の整備を促進

駐輪場附置義務条例 適合確認件数等（令和5年4月～令和6年2月末時点）

	件数	附置台数	設置台数
集客施設	24 件	586 台	746 台
共同住宅等	344 件	10,117 台	13,496 台
複合施設※	7 件	1,356 台	1,402 台
合計	375 件	12,434 台	15,644 台

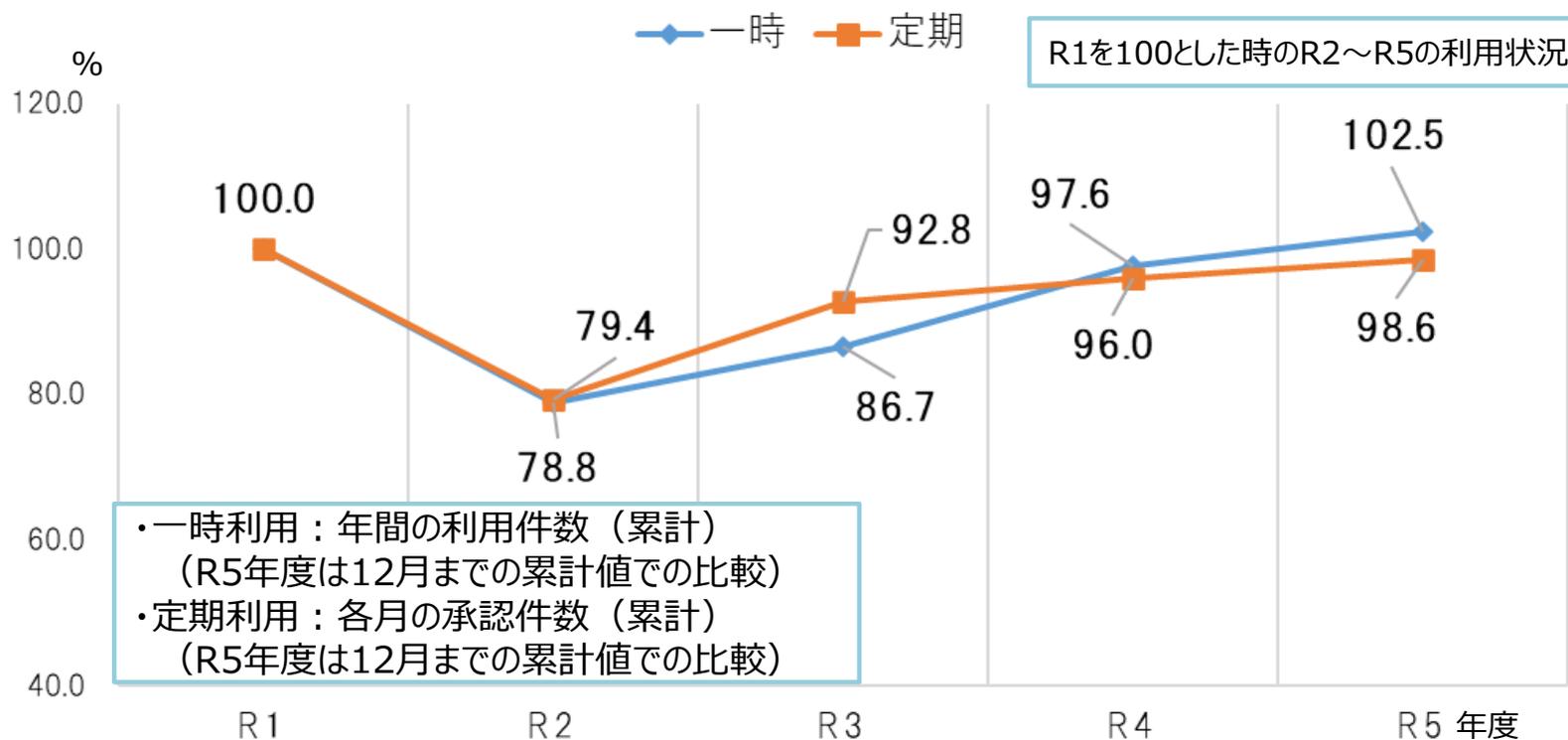
指標の1つとして、目標を設定

※ 1つの施設内に集客施設と共同住宅等が両方含まれるもの

【参考】市営自転車駐車場の利用状況

- 市営自転車駐車場は、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者数が減少
- R5年度（4月～12月）は、一時利用・定期利用ともにR元年度と同等にまで回復

市営自転車駐車場の利用状況（自転車）



■方針

■具体の取組

方針 1

健康的な
「ライフスタイル」
にいかす

(1) 自転車を活かした健康づくりの支援

(2) サイクルスポーツへの興味を高める取組推進

方針 2

横浜らしい
「まちづくり」
にいかす

(1) 観光や賑わいのあるまちづくりでの自転車活用の推進

(2) まちづくりと連携した自転車活用の推進

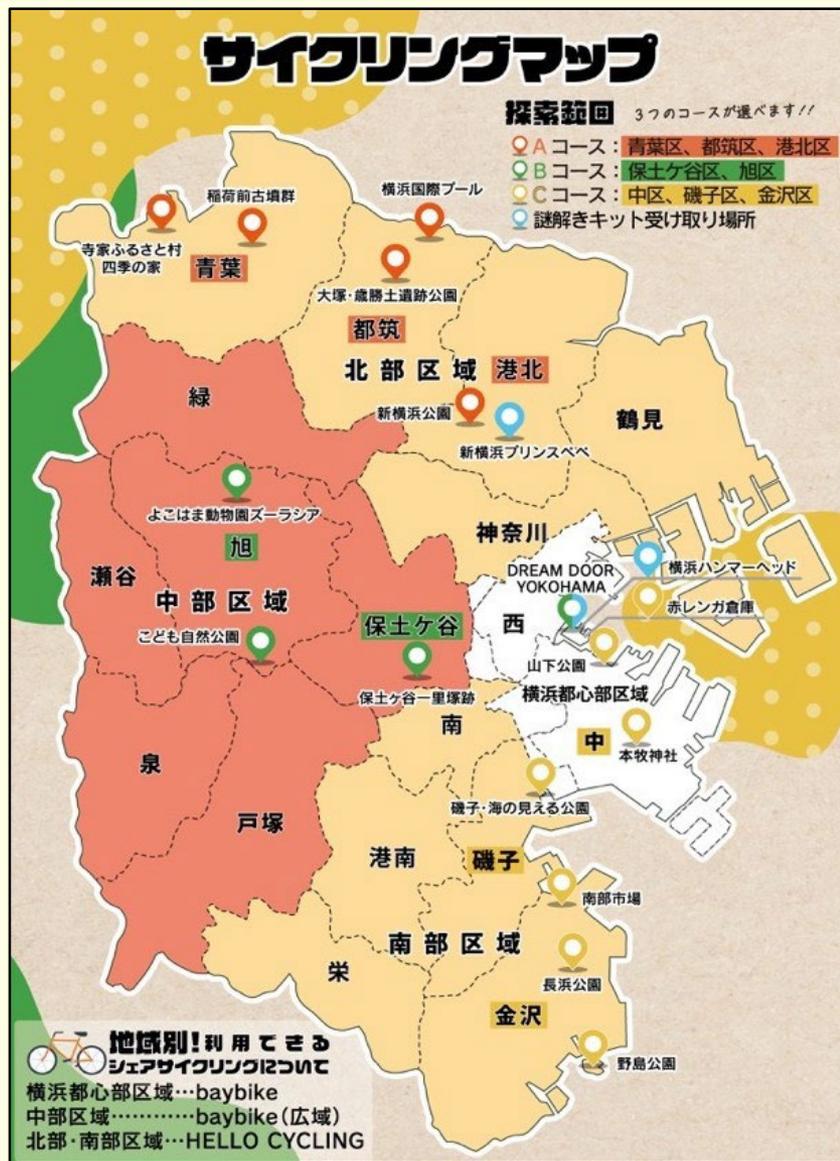
謎解きサイクルイベント

開催概要

イベント概要

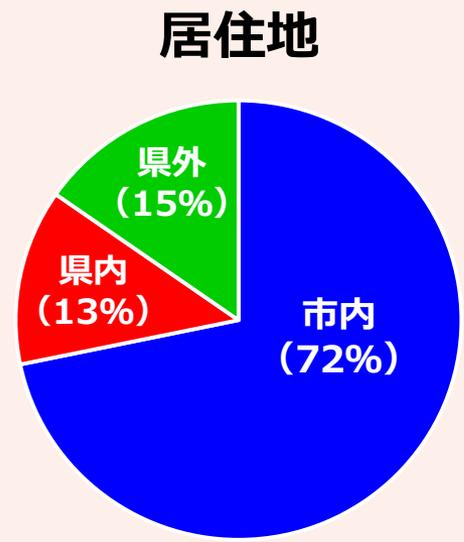
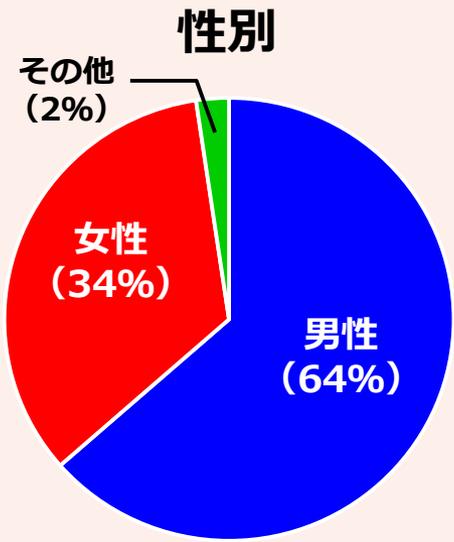
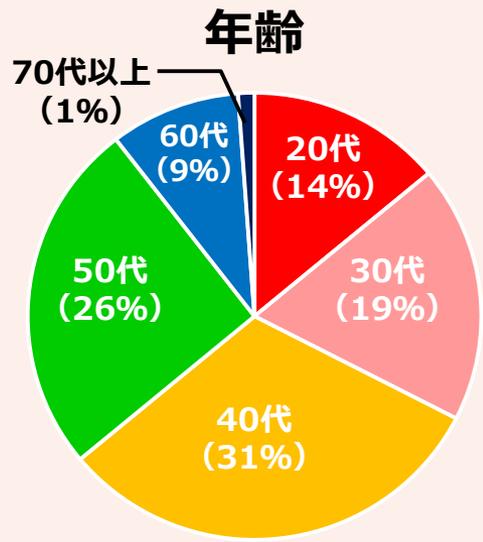
自転車探偵の横浜七不思議捜査

- 開催期間：令和5年10月6日(金)～12月21日(木)
 - 開催場所：横浜市内（北部・中部・南部の3コース）
 - 料 金：1,500円（謎解きキット代）
 - 主 催：横浜市道路局、AXELL株式会社
 - 参加者数：**309人**
- ・参加者自身が主人公となって、謎を解きながら市内の各スポットをめぐる**周遊型の謎解きイベント**
- ・冊子の**謎解きキット**と**専用アプリ**を使って、街中のヒントを頼りに、謎を解きつつ、ゴールを目指す。



謎解きサイクルイベント アンケート結果

● イベント参加者に対し、横浜市電子申請システムよりプレゼント応募申請と同時にアンケート調査も実施 → 参加者のうち、85名から回答・応募



【主な意見や感想】

- ・ 普段見慣れている横浜でも、知らなかった歴史や景色など、新たな一面を感じる事ができた。
- ・ 謎解きの難度も易しすぎず、難しすぎず、いろいろなタイプの謎があつて楽しかった。
- ・ 距離が少し遠く、時間がかかって疲れたりしたが、達成感があつた。

イベントを通して...

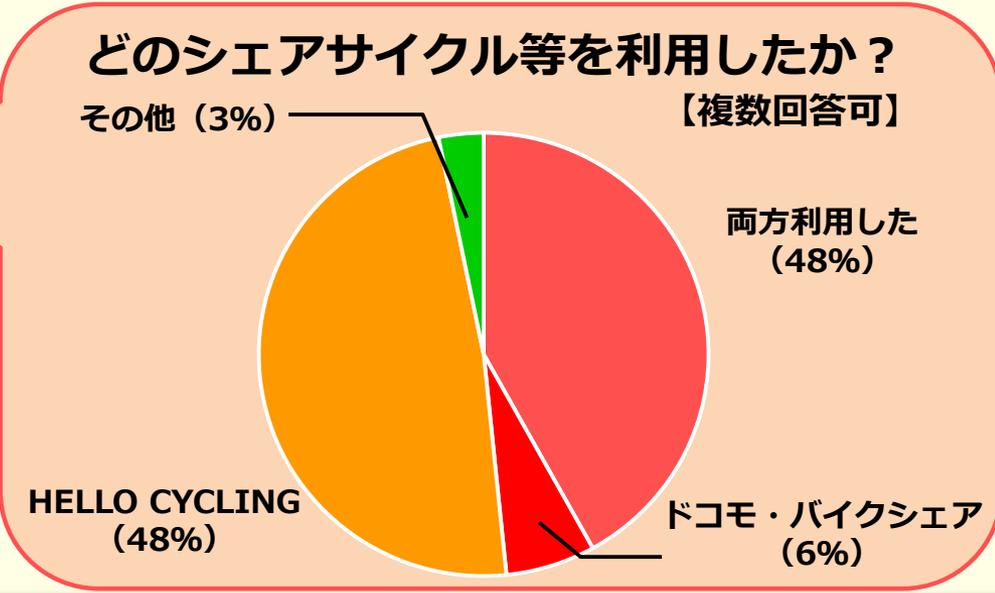
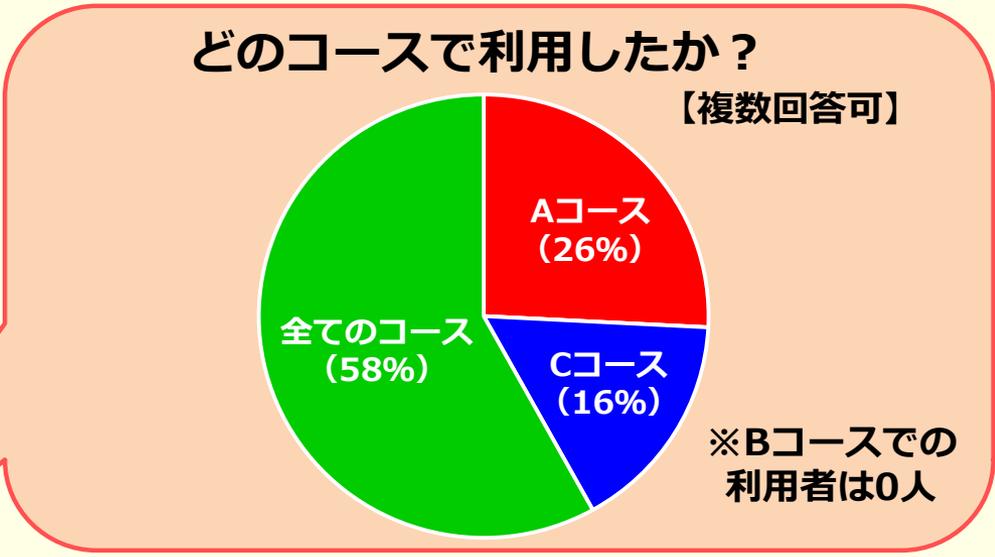
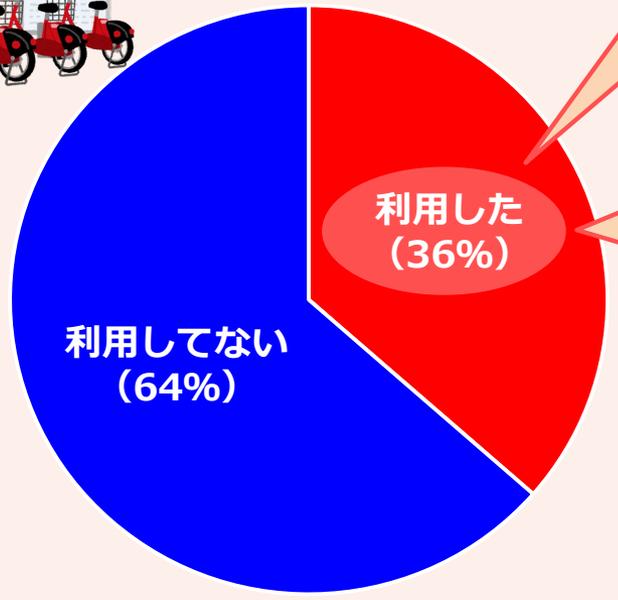
- **自転車に乗るきっかけづくり**
- **横浜の魅力の再発見** などに寄与

謎解きサイクルイベント アンケート結果

アンケート回答者のうち約**9割**が「すべてのコースを巡った」と回答



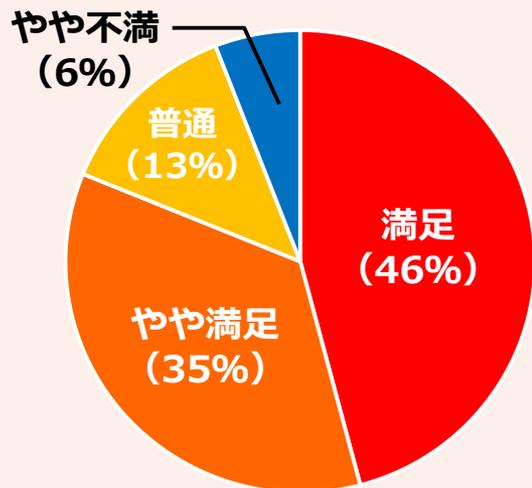
シェアサイクル・レンタサイクルを
利用したか？



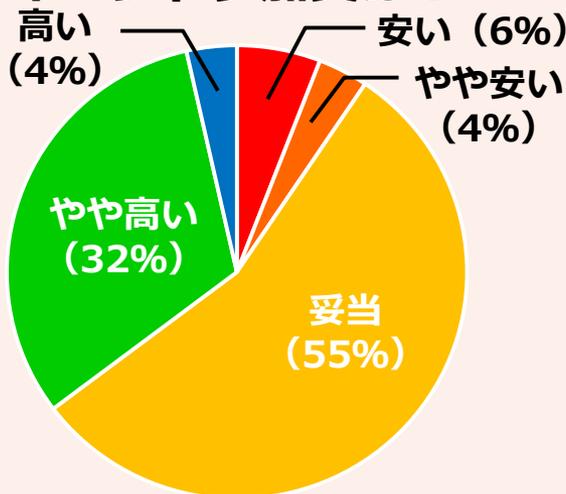
いかす

謎解きサイクルイベント アンケート結果

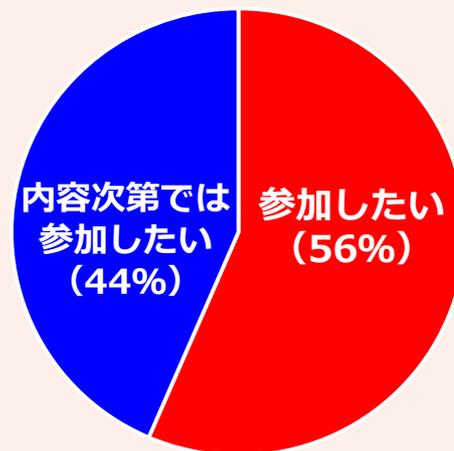
本イベントの満足度は？



イベント参加費は？



次回も参加したいか？



【満足度】…**約8割**が「満足」「やや満足」と回答

→「やや不満」と回答した方も

【イベント参加費】…**全員**が「妥当」「安い」と回答

【次回への参加】……**4割**が「参加したい」、6割が「内容次第では」と回答

【イベント参加費】…**6割以上**が「安い」「やや安い」「妥当」と回答

→今回のイベント参加費は通常の謎解きイベントよりも安価に設定

…**一方で約4割**が「高い」「やや高い」と回答

→過去のサイクルイベントは無料だったため、参加費発生に抵抗感か？

イベント自体に対する反応は総じて良好

謎解きサイクルイベント 実施結果

【今後の課題】

●参加者数の伸び悩み

- ・今までのイベント開催の中で、今回は初めての有償イベントであった。
- ・昨年度実施したサイクルイベントから参加者が減少した。

【参考】「ひつじのショーンが案内する横浜横須賀めぐりサイクルスタンプラリー Vol.3」
参加費：無料 参加者数：1,008人（令和5年度実施）

●普段から自転車に乗らない方や若い世代の方のイベント参加率の向上

- ・これまで実施してきたイベントでは、いわゆる自転車乗りの方や年齢層の高い方々のイベント参加が多かった。

【今後イベントを実施するにあたり検討すべき事項】

●イベント周知の強化

→継続して市広報媒体を活用しつつ、関係各所と連携してより幅広い層へ周知を

●参加者に合わせたイベント及びコースの設定・検討

→コンセプトを明確にし、参加者のニーズに合わせ、無理なく楽しめるコースの設定

●料金形態の見直し

→幅広い方々に気軽に参加してもらえそうな価格の設定を検討

今回のイベントでは、これまでの参加者数よりも少なく、好ましい結果とはならなかった。

しかし

有償イベントでもしっかりとした内容・コンテンツであれば、イベントに対する満足度は高く、一定のリピートを希望する反応があった。

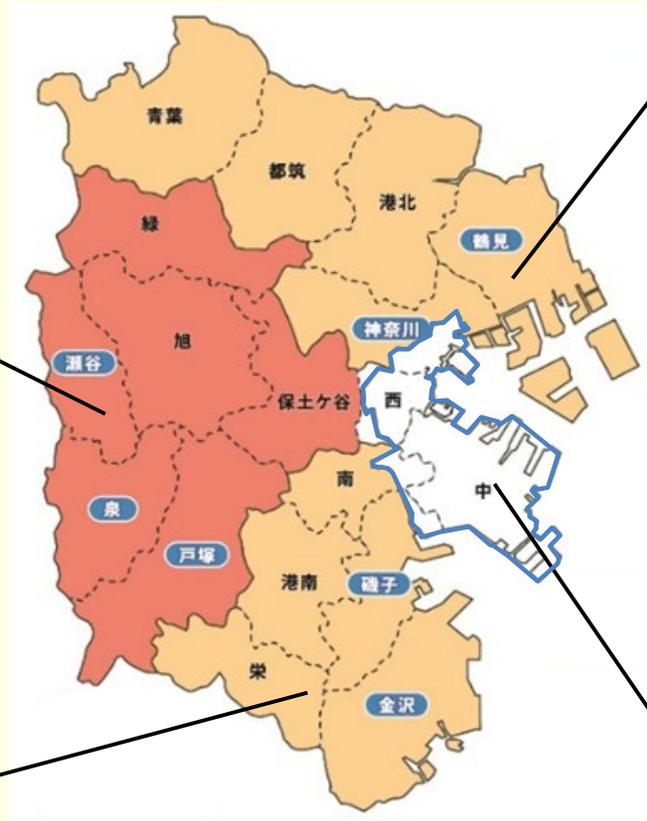
横浜市全体のシェアサイクルの取組状況

広域事業（中部区域）

サービス：baybike（広域）
 協働事業者：(株)ドットエフ・バイクシニア
 社会実験：R4.6~R7.3
 ポート数：78箇所696台

広域事業（北部区域）

サービス：HELLO CYCLING
 協働事業者：OpenStreet(株)
 (他連携事業者4社)
 社会実験：R4.6~R7.3
 ポート数：195箇所1,198台



広域事業（南部区域）

サービス：HELLO CYCLING
 協働事業者：OpenStreet(株)
 (他連携事業者4社)
 社会実験：R4.6~R7.3
 ポート数：87箇所581台

都心部事業

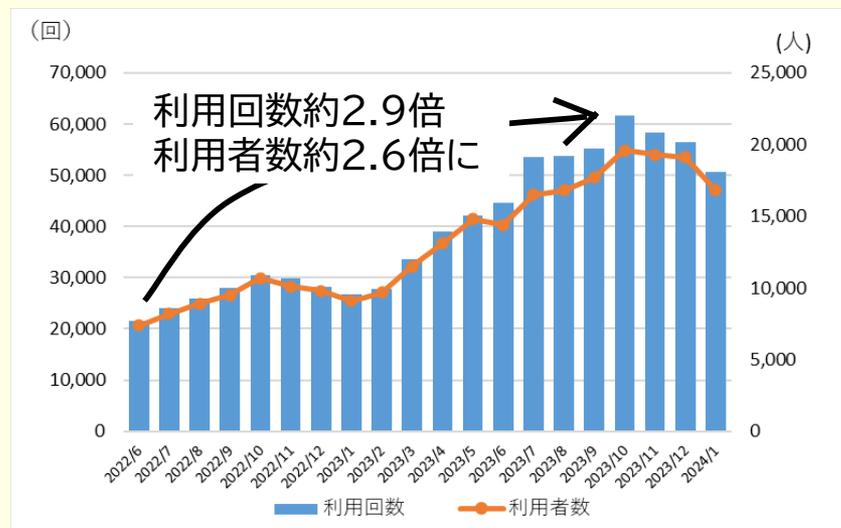
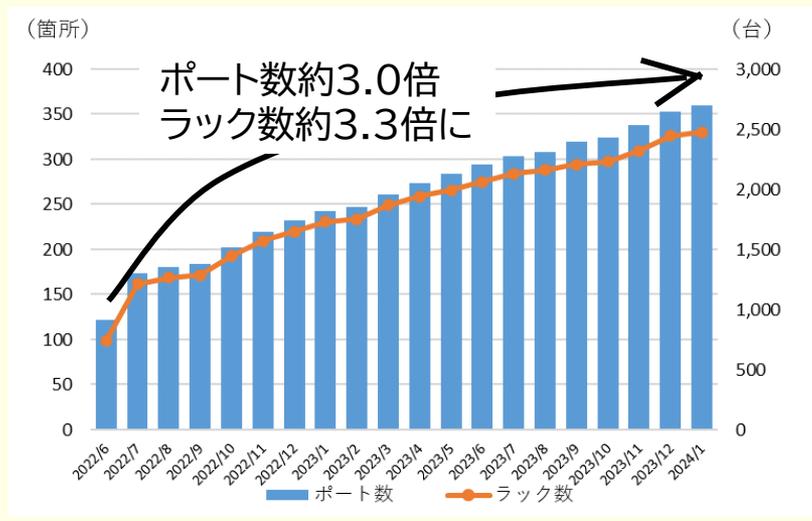
サービス：baybike
 協働事業者：(株)ドットエフ・バイクシニア
 社会実験：H23.4~25.3
 本格実施：H26.4~R7.3*
 ポート数：138箇所1,379台
*R6.3からR7.3に延長

横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の取組状況

● 現在の事業の進捗状況（広域全体）

	ポート数	ラック数	利用回数/月	利用者数/月 (アクティブ)
R4.6	122箇所	738台	21,500回	7,400人
R5.3	262箇所	1,867台	33,700回	11,500人
R6.1	360箇所	2,475台	※61,600回	※19,600人

※実施期間中最大値

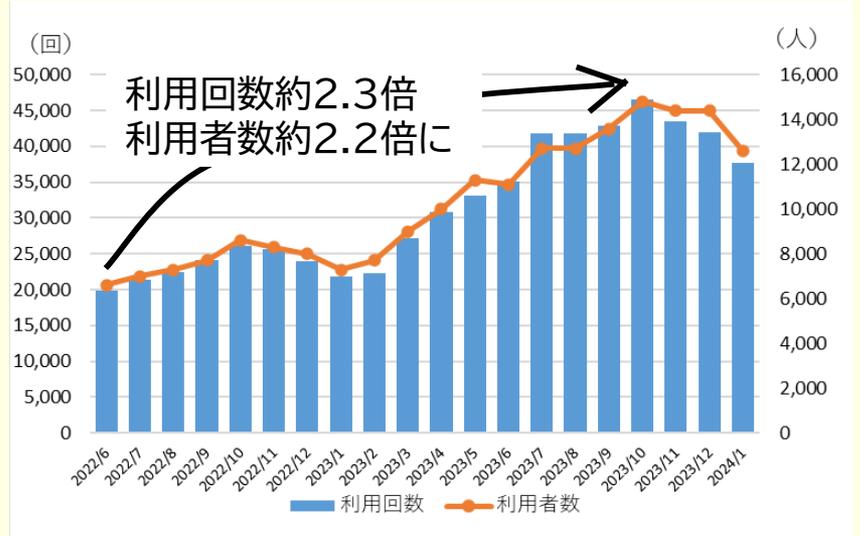
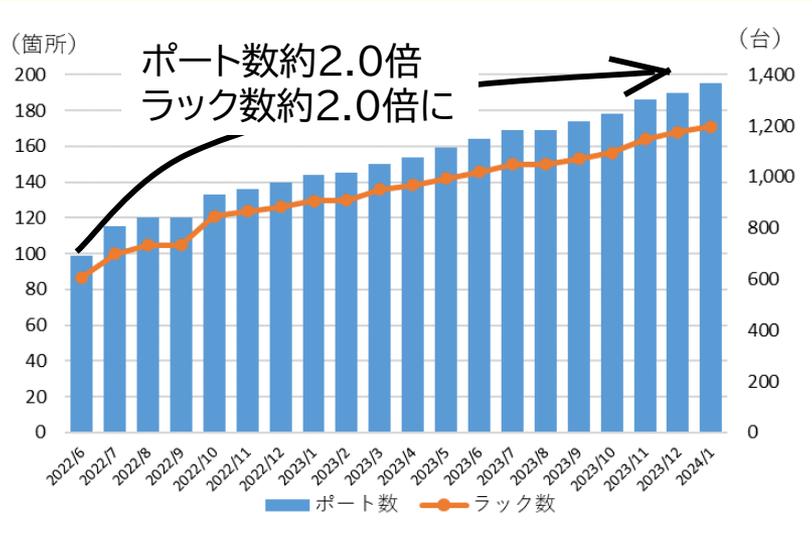


横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の取組状況

● 現在の事業の進捗状況（北部区域）

	ポート数	ラック数	利用回数/月	利用者数/月 (アクティブ)
R4.6	99箇所	607台	19,900回	6,600人
R5.3	150箇所	951台	27,100回	9,000人
R6.1	195箇所	1,198台	※46,600回	※14,800人

※実施期間中最大値

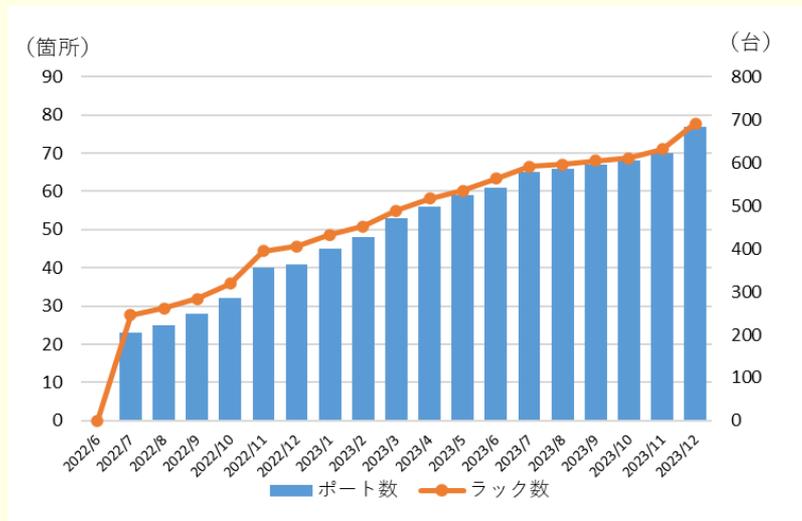


横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の取組状況

● 現在の事業の進捗状況（中部区域）

	ポート数	ラック数	利用回数/月	利用者数/月 (アクティブ)
R4.6	0箇所	0台	0回	0人
R5.3	53箇所	489台	3,600回	1,100人
R6.1	78箇所	696台	※8,900回	※2,300人

※実施期間中最大値

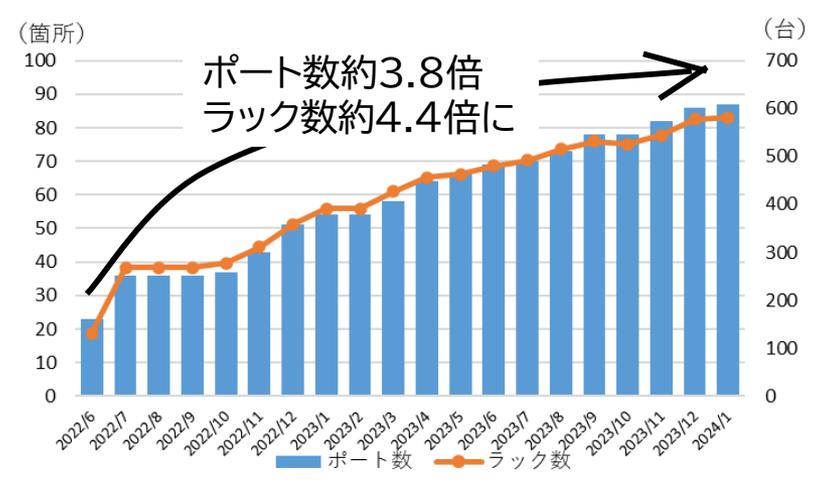


横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の取組状況

● 現在の事業の進捗状況（南部区域）

	ポート数	ラック数	利用回数/月	利用者数/月 (アクティブ)
R4.6	23箇所	131台	1,600回	800人
R5.3	58箇所	427台	3,000回	1,400人
R6.1	87箇所	581台	※6,300回	※2,700人

※実施期間中最大値

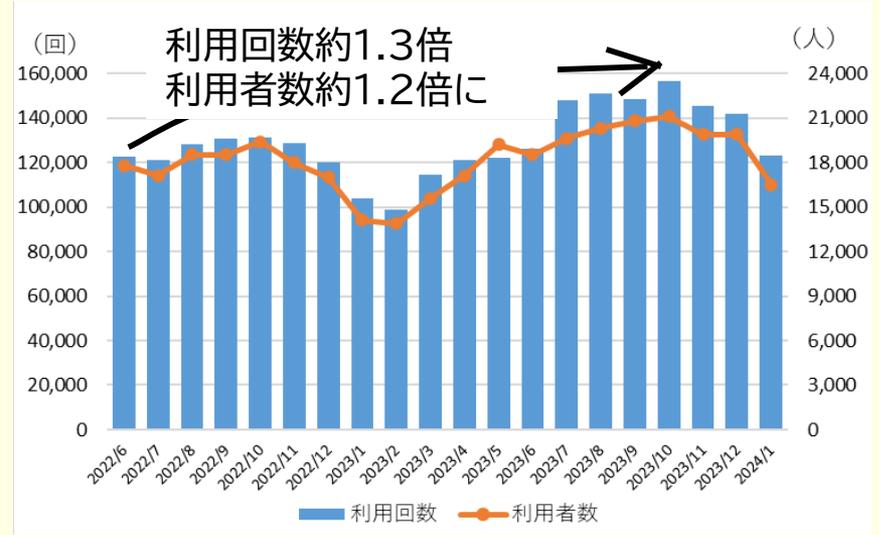
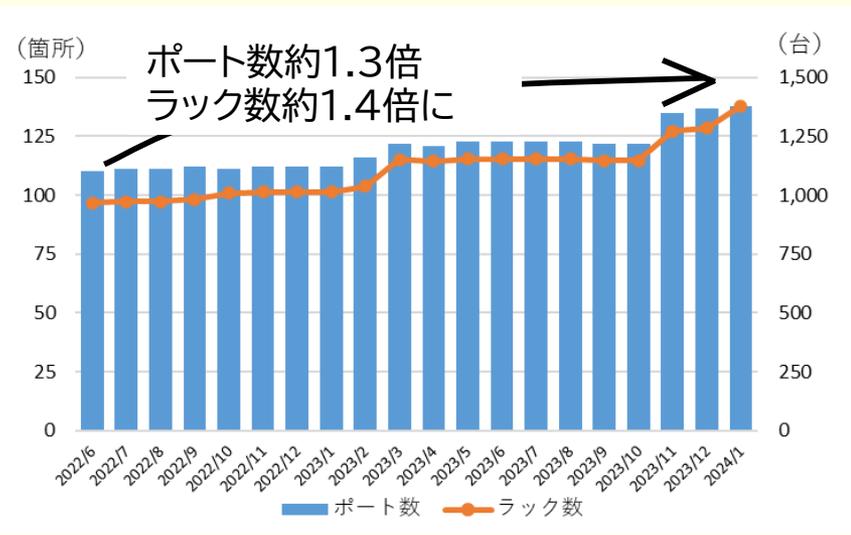


横浜都心部コミュニティサイクル事業の取組状況

● 現在の事業の進捗状況

	ポート数	ラック数	利用回数/月	利用者数/月 (アクティブ)
R4.6	110箇所	967台	122,500回	17,800人
R5.3	122箇所	1,152台	114,200回	15,600人
R6.1	138箇所	1,379台	※156,500回	※21,100人

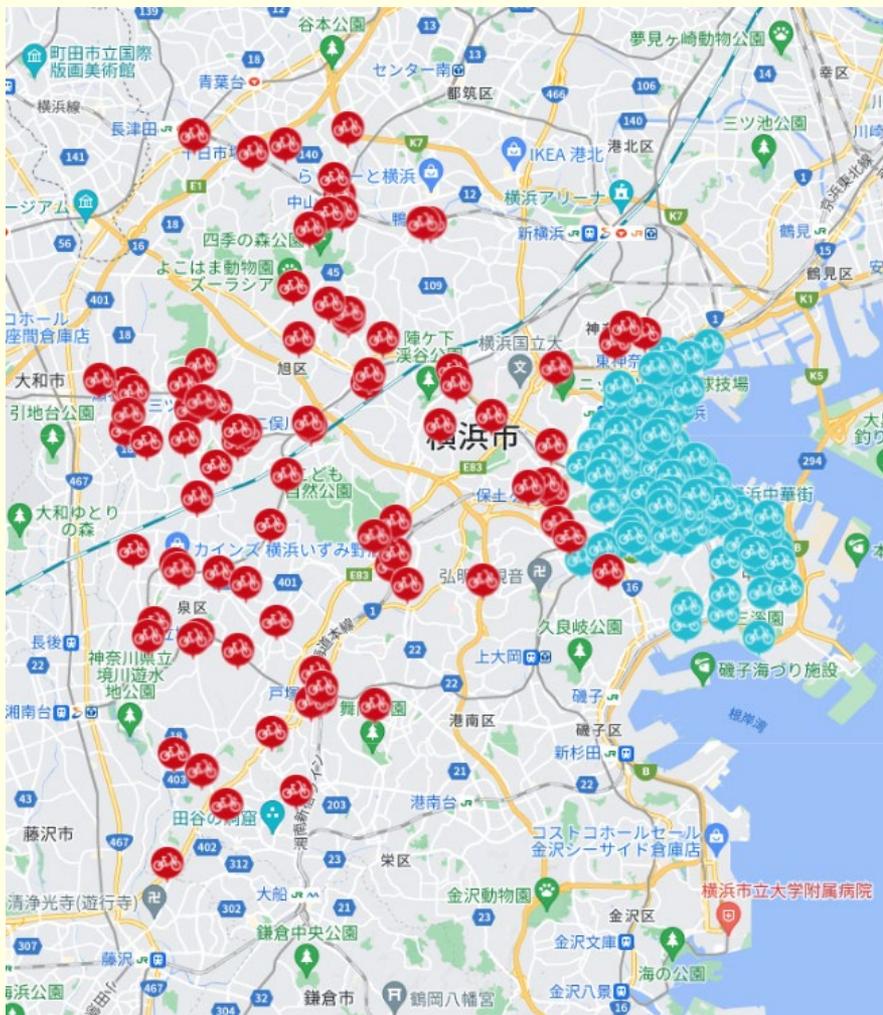
※実施期間中最大値



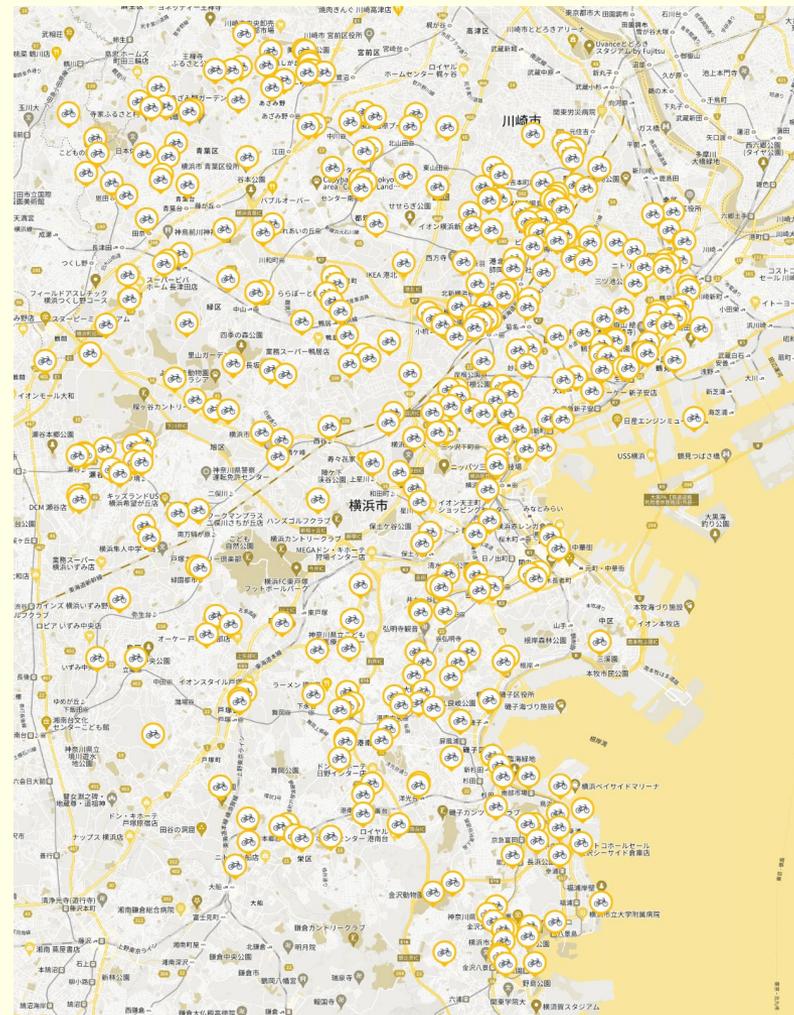
いかす

横浜市内のシェアサイクルポート設置状況

赤：baybike(広域)、水色：baybike



HELLO CYCLING



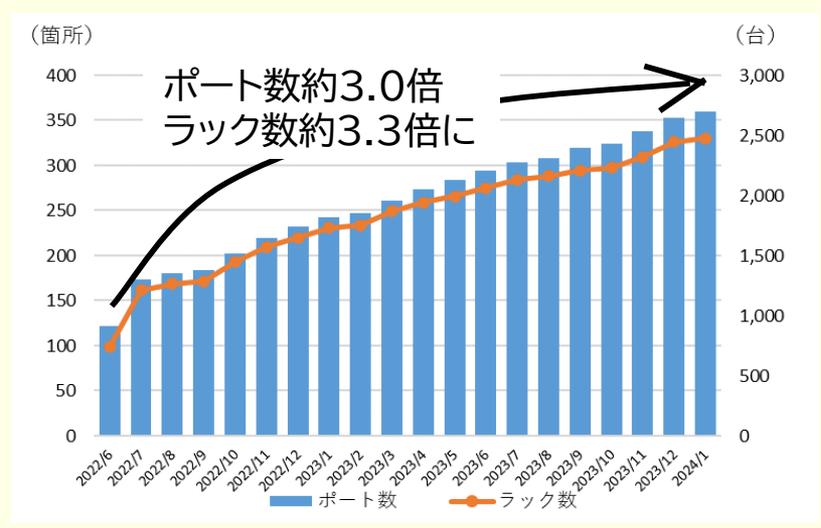
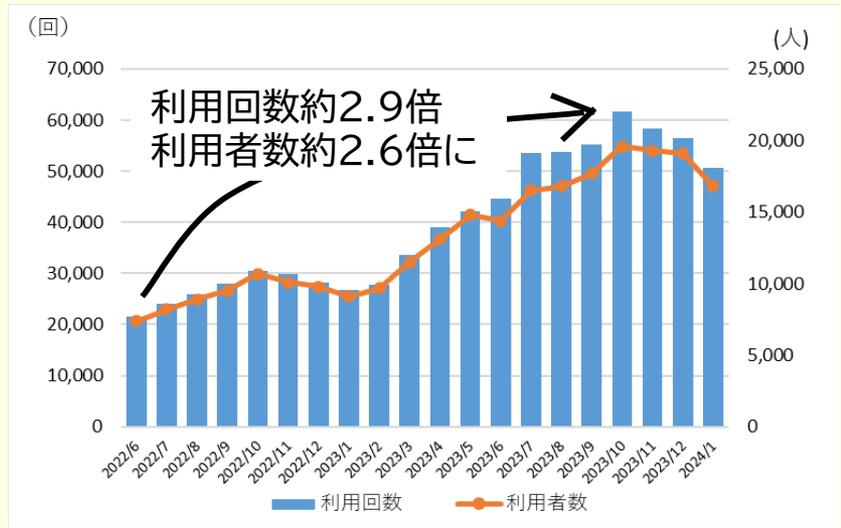
横浜市内のシェアサイクルポート設置状況

種別		R6.1末時点 設置数					
		市内全域	広域事業(社会実験)				都心部事業
			広域全体	北部区域	中部区域	南部区域	
公有地	庁舎等施設	59	47	10	24	13	12
	道路	75	53	23	17	13	22
	公園	42	22	3	7	12	20
	下水道	6	6	4	1	1	0
	港湾	4	0	0	0	0	4
	小計	186	128	40	49	39	58
民有地		312	232	155	29	48	80
合計		498	360	195	78	87	138

シェアサイクル事業の今後の取組の方向性

● 広域事業の成果について

- ・ 社会実験開始時点と比較すると、
利用者数は約**2.9倍**、利用者数は約**2.6倍**
ポート数は約**3.0倍**、ラック数は約**3.3倍**になるなど利用が伸びており、
市民ニーズがある事業として順調に推移している。

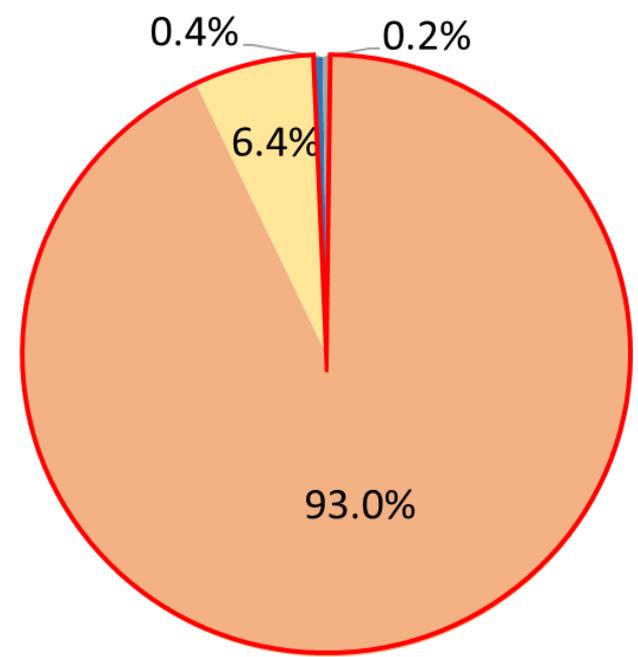


シェアサイクル事業の今後の取組の方向性

● シェアサイクル事業の継続について

「賛成」、
「どちらかといえば賛成」を
合計すると**99.4%**となっている

設問：本事業の継続について、どのように考えますか？



■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成
■ どちらかといえば反対 ■ 反対

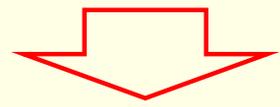
調査時期：令和6年2月13日～2月25日（有効回答者数：1,603人）
調査手法：アプリ上のプッシュ配信により、利用者アンケートを実施

シェアサイクル事業の今後の取組の方向性

- 広域エリア（中部区域）と横浜都心部の移動ニーズについて

出発エリア⇒到着エリア	移動回数/月	移動割合
中部区域⇒中部区域	約4,000回	約65%
中部区域⇒横浜都心部	約2,200回	約35%

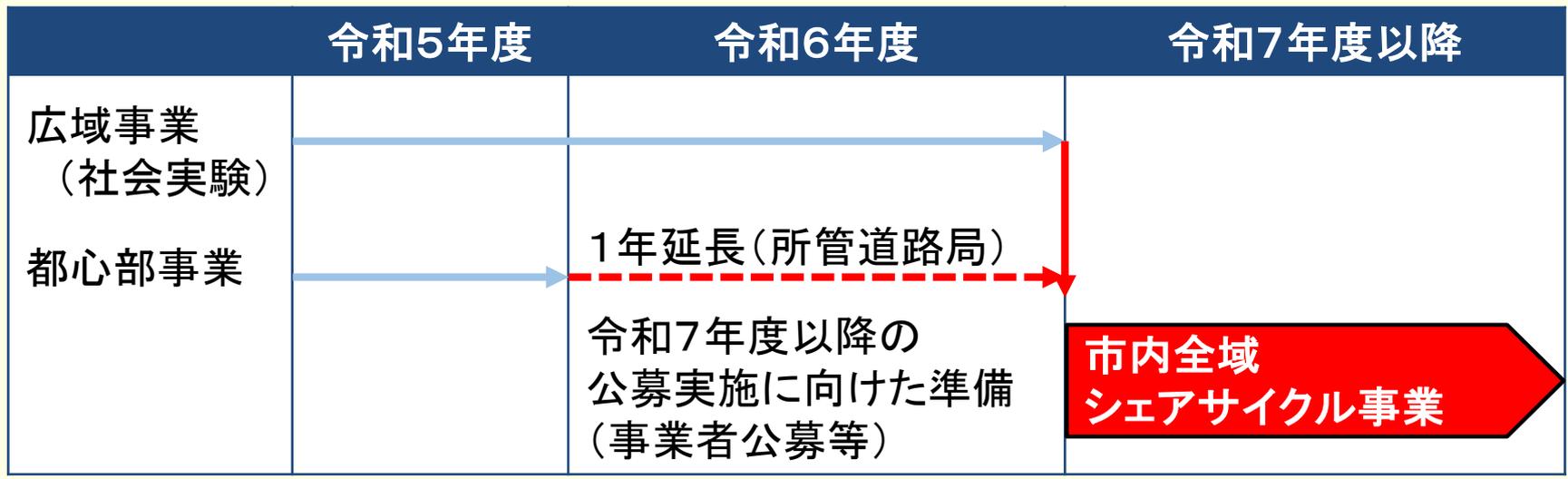
出発エリア⇒到着エリア	移動回数/月	移動割合
横浜都心部⇒横浜都心部	約156,500回	約98%
横浜都心部⇒中部区域	約2,600回	約2%



中部区域と横浜都心部をまたいで移動する一定のニーズがある

シェアサイクルの今後の取組の方向性

- ・ 令和7年度からの**市内全域一体でのシェアサイクル事業**の展開を見据えて、令和6年度に本格実施の協働事業者を公募します。
- ・ 令和6年度から**都心部事業を道路局に移管**します。
(都心部事業は令和6年度末までとなっていた事業期間を1年間延長)



指標の達成状況について

自転車活用推進計画の指標

実現に関連する
テーマ

指標名	計画策定時点	2022年度	2023年度	2025年度 (目標値)	実現に関連するテーマ			
					まもる	はしる	とめる	いかす
自転車関係 交通事故件数	2,093件 (2017年実績)	1,734件	1,760件	1,600件以下	○	○		
自転車通行ルールの 認知度(遵守度)	2019年度に実施の 市民向けアンケート調査 結果等により指標を設定	知っている 85.8% (行っている 73.2%)	知っている 91.1% (行っている 74.5%)	知っている 90% (行っている 80.0%)	○			
自転車保険の 加入率	2019年度に実施の 市民向けアンケート調査 結果等により指標を設定	77.7%	78.5%	85%	○			
自転車通行空間の 整備延長	33km (累計・2017年度末実績)	89km (累計)	95km	103km (累計)		○		

自転車活用推進計画の指標

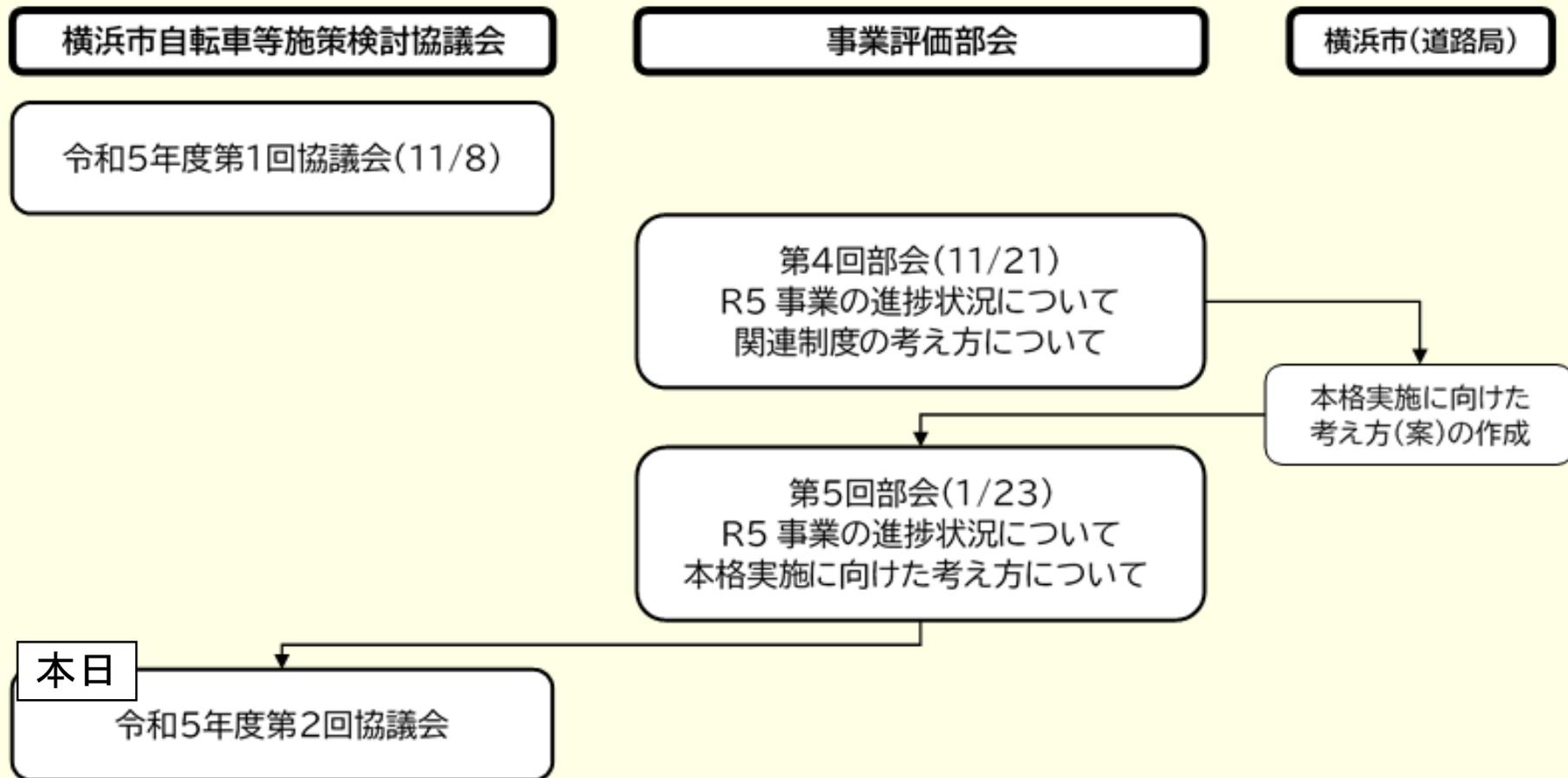
実現に関連する
テーマ

指標名	計画策定時点	2022年度	2023年度	2025年度 (目標値)	実現に関連するテーマ			
					まもる	はしる	とめる	いかす
放置自転車台数	8,297台 (2017年実績)	5,101台	4,328台	4,000台未満			○	
附置義務条例による 集客施設の駐輪場 収容台数の増加	—	5,977台 (累計)	6,723台 (累計)	7,200台 (累計)			○	
自転車関連イベント (「いかす」施策)の 開催件数 (市が関係するもの)	—	2件	5件 (2022年度～累計)	10件 (2022年度～ 2025年度累計)				○
自転車利用環境の 満足度※	2019年度に実施の 市民向けアンケート調査 結果等により指標を設定	23.1% (まもる)	26.4% (まもる)	23.1% (まもる)	○	○	○	○
		19.8% (はしる)	27.7% (はしる)	22.1% (はしる)				
		23.4% (とめる)	35.6% (とめる)	36.0% (とめる)				
		28.9% (いかす)	33.9% (いかす)	28.9% (いかす)				

※指標設定時(2019年度)からの実績の最高値より向上

2

横浜市広域シェアサイクル 事業社会実験事業評価部会 の開催状況について



第4回部会の概要等

- ・開催日：令和5年11月21日（火）
- ・出席者：岡村部会長、小嶋委員、後藤委員、吉田委員
- ・議題：令和5年度横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の
進捗状況について
関連制度の考え方について

第4回部会でいただいた主なご意見

- ・公民連携事業としての事業効果とその評価にあたっては、横浜市が関与する必要性がある部分に絞って、説明をするべきではないか
- ・今後、シームレスな移動を促すことを考えると、市域一体で事業を進められる事業者が望ましいが、地元業者の参画も考慮すると、コンソーシアムも認めた方がよいのではないか

第5回部会の概要等

- ・開催日：令和6年1月23日（水）
- ・出席者：岡村部会長、小嶋委員、後藤委員、吉田委員
- ・議 題：令和5年度横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の
進捗状況について
本格実施に向けた考え方について

第5回部会でいただいた主なご意見

- ・今後の事業において、ポート設置や事業採算性の確保を考慮すると、事業期間を5年とするのは適切だと考えるが、サウンディングで意見を聞くべきではないか

令和5年度第2回 横浜市自転車等施策 検討協議会【参考資料】



令和6年3月19日



自転車保険の加入促進

【参考】ヨコハマeアンケートとR5調査結果との比較

市内在住・在勤・在学
の15歳以上の方
メンバー数：4,808人
(9月29日時点)

概要

- ・ **ヨコハマeアンケート（登録メンバーによるインターネット調査）**
令和5年9月29日～10月9日まで、ヨコハマeアンケート登録者を対象に実施
インターネットにより回答 ⇒回答者数は1,339人（**27.8%**）
- ・ **令和5年度調査（無作為抽出による調査）**
令和5年11月24日～12月14日まで、6歳以上の市民5,000人を対象に実施
インターネットにより回答 ⇒回答者数は413人（**8.3%**）

	R4調査(例年実施)	ヨコハマeアンケート
自転車保険加入率	78.5%	86.4%
自転車保険加入義務化認知度	70.5%	69.1%
自転車保険認知度	91.5%	95.4%

eアンケート
回答者の方が
高い加入率・
認知度となっ
た

令和5年度は新たな取組として、市民局広聴相談課で実施しているヨコハマeアンケートによる調査も並行して実施。例年通りの調査と比較し、高い保険加入率と保険加入義務化・保険認知度となったものの、自転車保険自体の認知度に比べて自転車保険加入義務化の認知度が低いといった傾向は共通している。

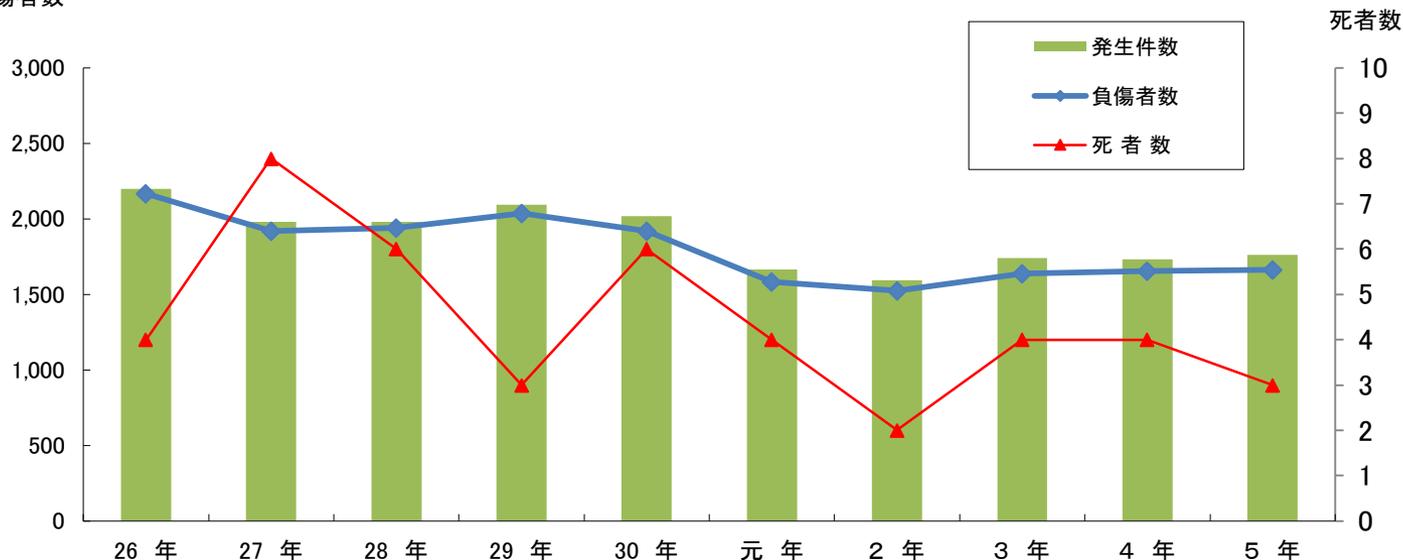
市内自転車事故の発生状況

- 過去10年間の横浜市内の自転車関係事故発生状況を見ると、発生件数、死者数、負傷者数いずれも減少傾向（平成26年から令和5年まで）

区 分	26 年	27 年	28 年	29 年	30 年	元 年	2 年	3 年	4 年	5 年
発生件数	2,200	1,982	1,981	2,093	2,018	1,665	1,593	1,741	1,734	1,760
前年増減	▲ 317	▲ 218	▲ 1	112	▲ 75	▲ 353	▲ 72	148	▲ 7	26
死者数	4	8	6	3	6	4	2	4	4	3
前年増減	▲ 2	4	▲ 2	▲ 3	3	▲ 2	▲ 2	2	0	▲ 1
負傷者数	2,167	1,921	1,941	2,037	1,919	1,582	1,525	1,639	1,653	1,661
前年増減	▲ 279	▲ 246	20	96	▲ 118	▲ 337	▲ 57	114	14	8

事故件数
負傷者数

過去10年間の市内自転車事故の発生状況



- 自転車保険加入状況や利用環境満足度に関する意識調査を実施
- 令和元年度から4年間継続して同様の調査を行い、指標達成状況を確認

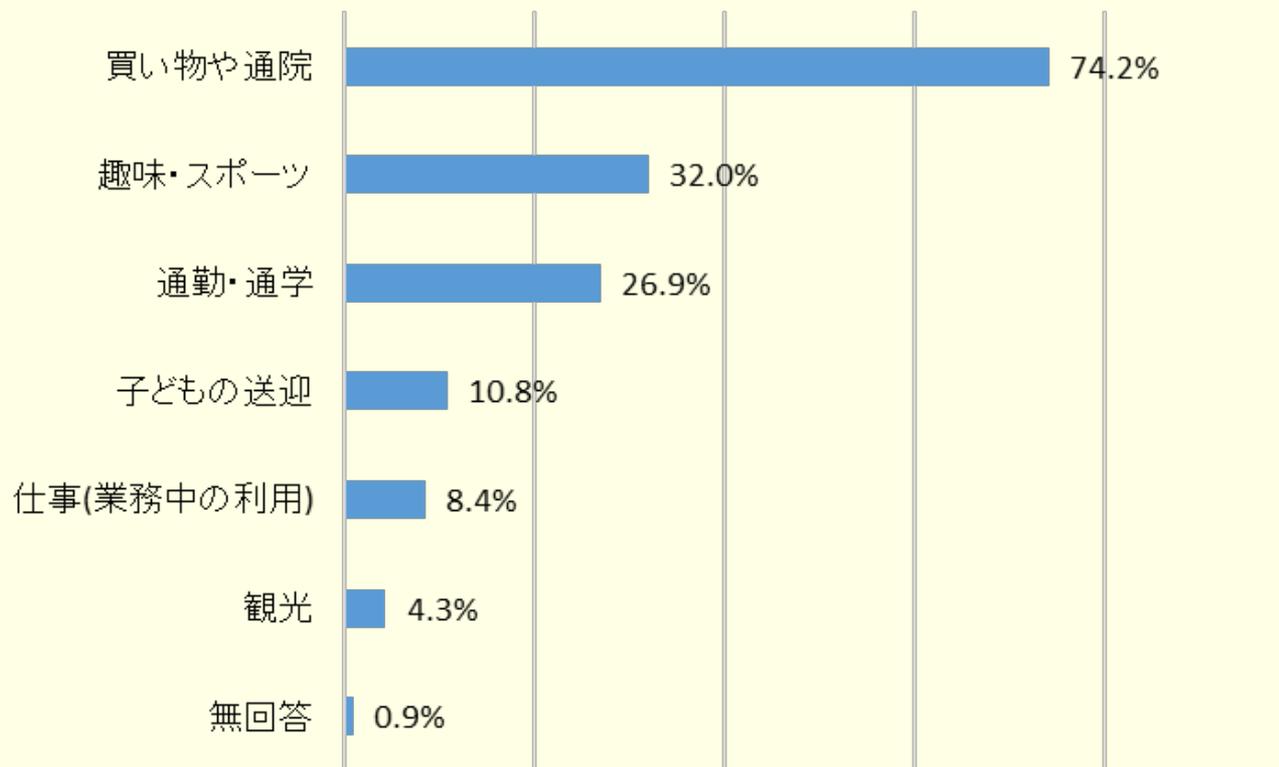
- 実施期間：令和5年11月～12月
- 対象者：無作為抽出により市民5,000人に送付
- 回答者数：413人
- 主な設問内容：

全般	自転車利用の有無・利用目的
まもる	自転車保険の加入状況
まもる	自転車の交通ルールについて知っていること・実際に行っていること
はしる	道路を安全・快適に走ることができる環境があるか
とめる	自転車がとめやすい環境にあるか
いかす	健康づくりやまちづくり、観光に自転車が活用されているか

- 買い物や通院での利用が最も多く、趣味・スポーツでの利用は約3割

問：あなたが自転車を利用するのはどのような場面ですか。

※自転車利用者のみ質問（N=188、複数回答可）

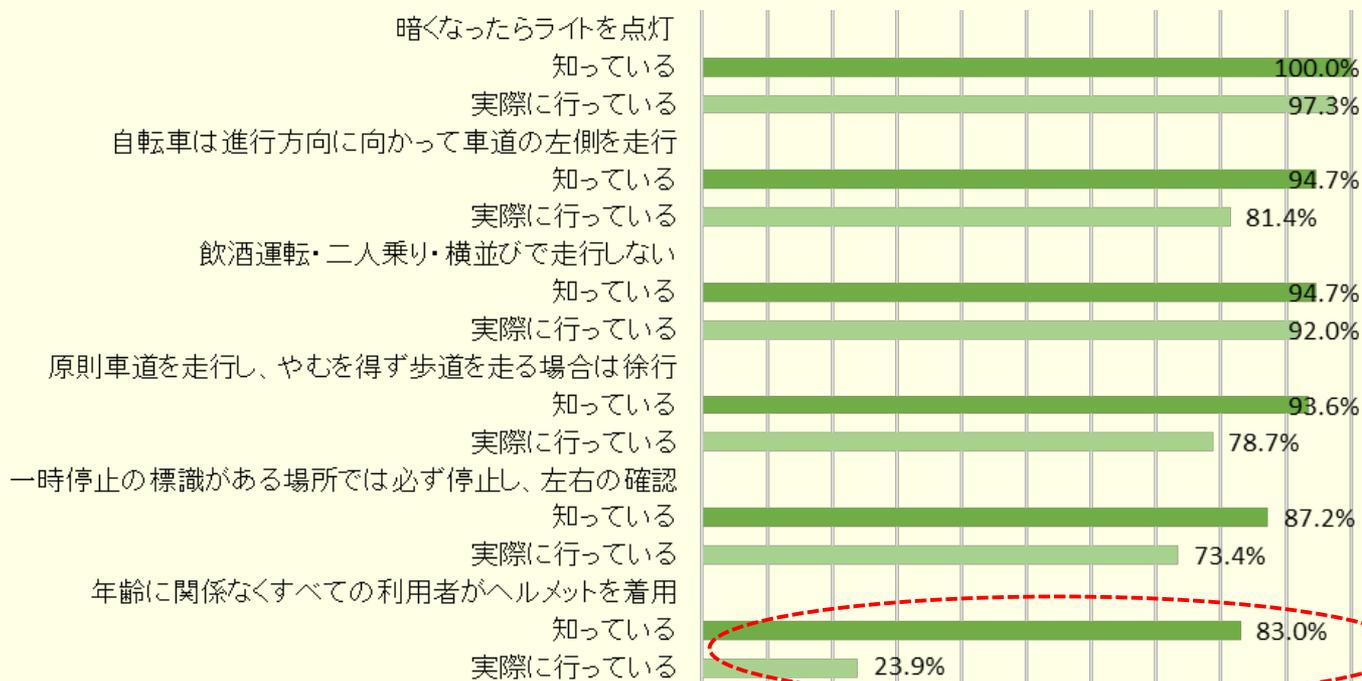


自転車通行ルールの認知度（遵守度）

- ヘルメット着用については、知っていても実際に行っていない人が約60%

問：あなたが知っていること/実際に行っていることを教えてください。

※自転車利用者の中に質問（N=188、複数回答可）



自転車活用推進計画の指標			
指標名	2022年度	2023年度	2025年度（目標値）
自転車通行ルールの認知度（遵守度）	知っている 85.8%	知っている 91.1%	知っている 90.0%
	（行っている 73.2%）	（行っている 74.5%）	（行っている 80.0%）

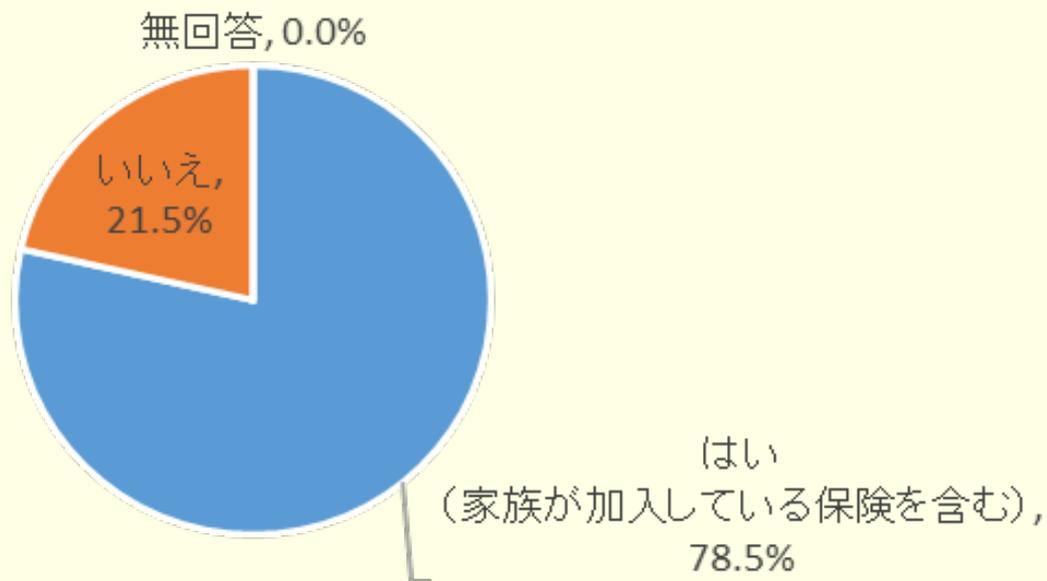
意識調査の結果概要

自転車保険の加入率

- 自転車保険の加入率は昨年度調査から約1%程度上昇して78.5%

問：あなた自身は自転車保険に加入していますか。

※自転車利用者の方に質問（N=188、複数回答可）



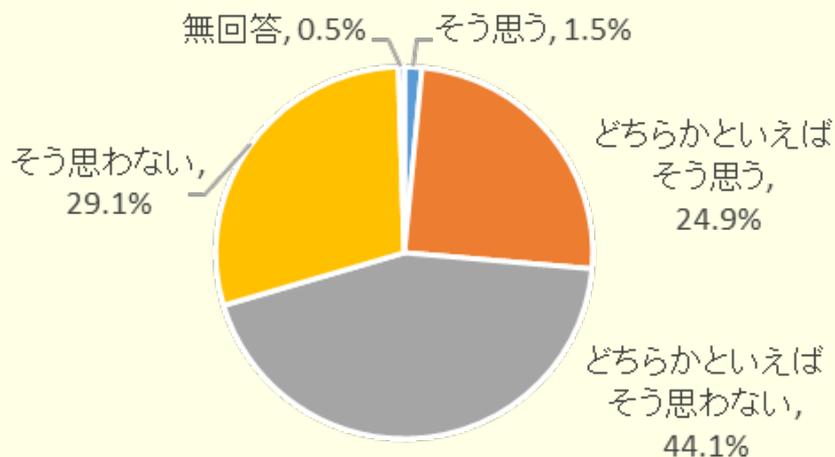
自転車活用推進計画の指標

指標名	2022年度	2023年度	2025年度 (目標値)
自転車保険の加入率	77.7%	78.5%	85%

自転車利用環境の満足度（まもる）

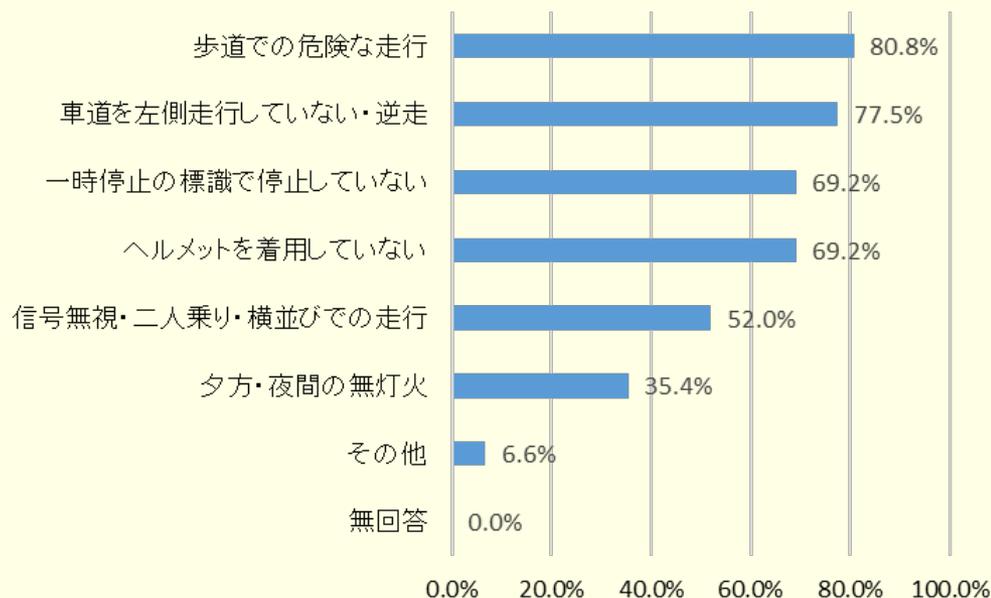
問：横浜市内では自転車の交通ルールが守られていると思いますか。

※全員に質問（N=413）



問：守られていると思わない理由

（N=302、複数回答可）



自転車活用推進計画の指標

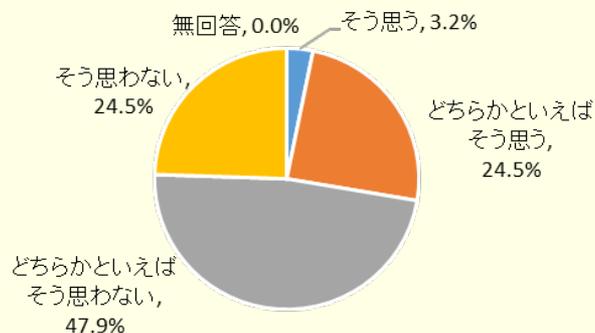
指標名	2022年度	2023年度	2025年度（目標値）
自転車利用環境の満足度※	23.1%（まもる）	26.4%（まもる）	23.1%（まもる）
	19.8%（はしる）	27.7%（はしる）	22.1%（はしる）
	23.4%（とめる）	35.6%（とめる）	36.0%（とめる）
	28.9%（いかす）	33.9%（いかす）	28.9%（いかす）

※指標設定時（2019年度）からの実績の最高値より向上

自転車利用環境の満足度（はしる）

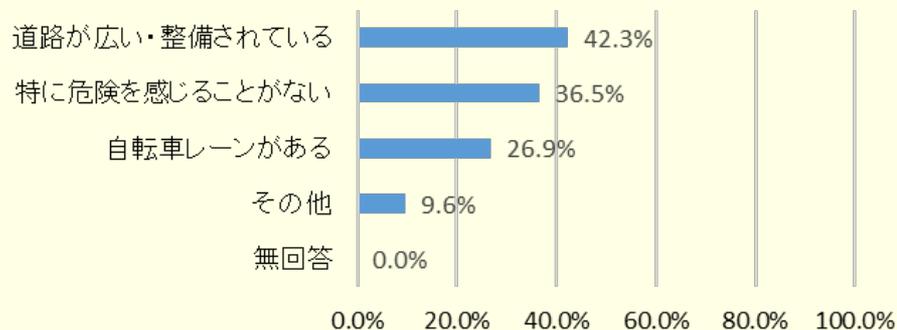
問：横浜市内で自転車を利用するとき、道路を安全・快適に走ることができる環境があると思いますか。

※自転車利用者の方に質問（N=188）



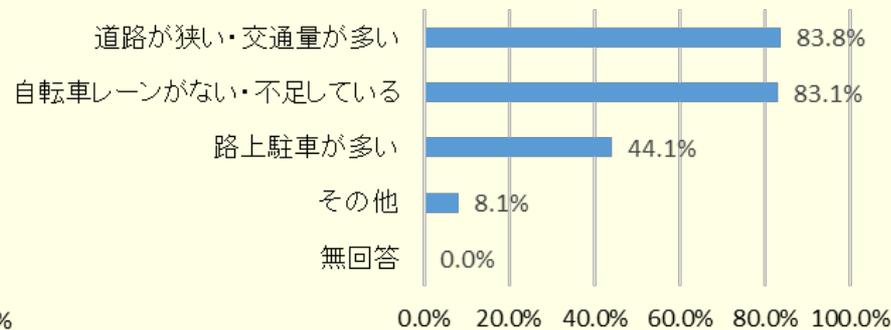
問：あると思う理由

（N=52、複数回答可）



問：あると思わない理由

（N=136、複数回答可）



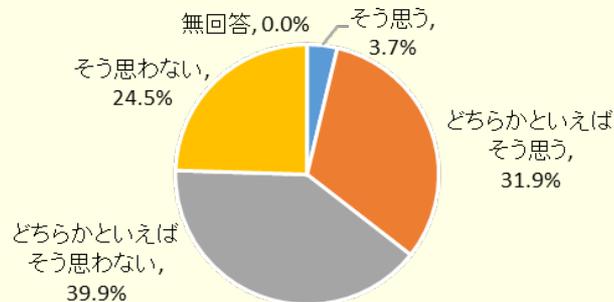
自転車活用推進計画の指標			
指標名	2022年度	2023年度	2025年度（目標値）
自転車利用環境の満足度※	23.1%（まもる）	26.4%（まもる）	23.1%（まもる）
	19.8%（はしる）	27.7%（はしる）	22.1%（はしる）
	23.4%（とめる）	35.6%（とめる）	36.0%（とめる）
	28.9%（いかす）	33.9%（いかす）	28.9%（いかす）

※指標設定時（2019年度）からの実績の最高値より向上

自転車利用環境の満足度（とめる）

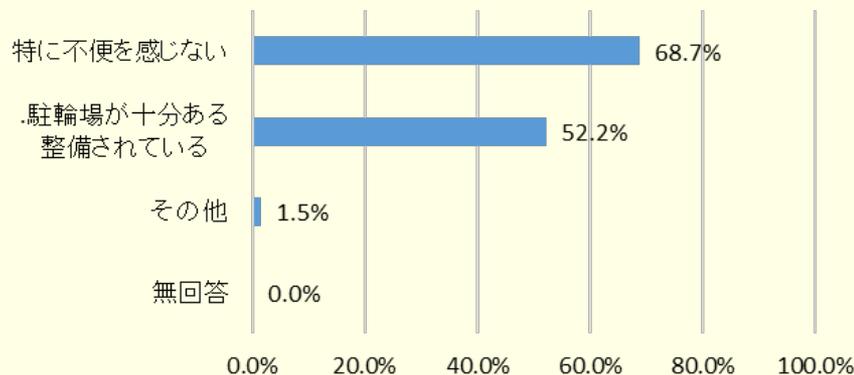
問：横浜市内で自転車を利用するとき、
自転車がとめやすい環境にあると思いますか。

※自転車利用者の方に質問（N=188）



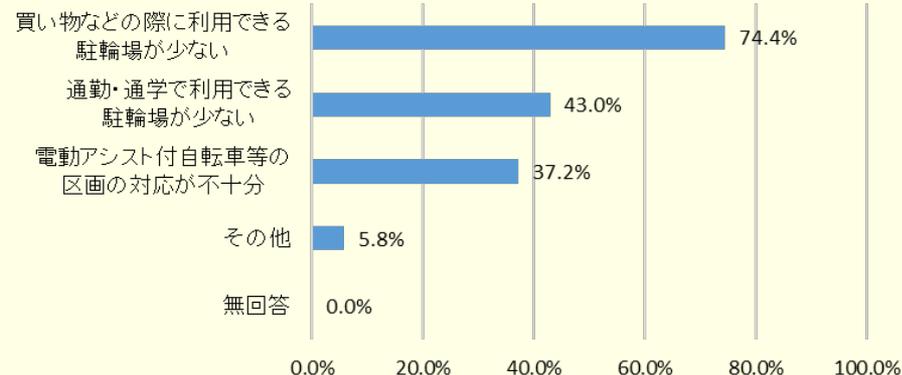
問：あると思う理由

（N=67、複数回答可）



問：あると思わない理由

（N=121、複数回答可）



自転車活用推進計画の指標

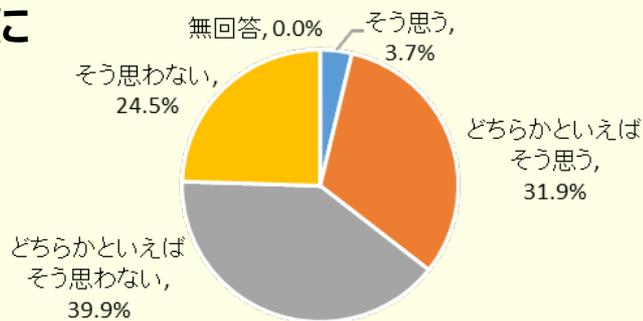
指標名	2022年度	2023年度	2025年度（目標値）
自転車利用環境の満足度※	23.1%（まもる）	26.4%（まもる）	23.1%（まもる）
	19.8%（はしる）	27.7%（はしる）	22.1%（はしる）
	23.4%（とめる）	35.6%（とめる）	36.0%（とめる）
	28.9%（いかす）	33.9%（いかす）	28.9%（いかす）

※指標設定時（2019年度）からの実績の最高値より向上

自転車利用環境の満足度（いかす）

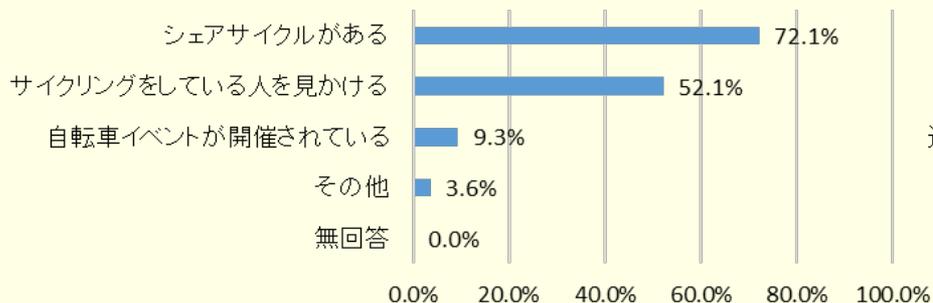
問：横浜市では健康づくりやまちづくり・観光などに
自転車が活用されていると思いますか。

※全員に質問（N=413）



問：あると思う理由

（N=140、複数回答可）



問：あると思わない理由

（N=271、複数回答可）



自転車活用推進計画の指標

指標名	2022年度	2023年度	2025年度（目標値）
自転車利用環境の満足度※	23.1%（まもる）	26.4%（まもる）	23.1%（まもる）
	19.8%（はしる）	27.7%（はしる）	22.1%（はしる）
	23.4%（とめる）	35.6%（とめる）	36.0%（とめる）
	28.9%（いかす）	33.9%（いかす）	28.9%（いかす）

※指標設定時(2019年度)からの実績の最高値より向上